

KNOW

NEWS
LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2022.9
第107号



公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center



競輪の補助事業

この冊子は、競輪の補助により作成しました。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp>



NEWS LETTER

2022.9・第107号

CONTENTS

随想

- 「コロナ禍における社会の変化、薬物情勢の変化」
厚生労働省関東信越厚生局 麻薬取締部長 長谷川 浩一 1

かいせつ

- コロナ禍における薬物使用の動向：
薬物使用に関する全国住民調査2021 より
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 2

- 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和4年度の
啓発活動状況～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて～ 7

- 「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・
厚生労働大臣メッセージ 8

- 「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要 26

- センターだより 32

- ご寄付団体及び賛助会員 36

「コロナ禍における社会の変化、薬物情勢の変化」

厚生労働省関東信越厚生局
麻薬取締部長

長谷川 浩一

令和2年にコロナ感染症が日本でも確認され、その後、全世界で猛威を振りました。その影響で、生活習慣、経済活動など、大きな変化が起きました。人々はマスクを着用し、手洗い・消毒を徹底するようになり、人との接触機会を減らすために人々の往来が減り、仕事もテレワークという在宅勤務の業務形態が生まれ、海外からのビジネス客や観光客が減りました。在宅勤務は、インターネットなどの普及・発展がそれを可能にしました。これらの社会の変化が薬物情勢にも大きく影響を与えているように思います。

捜査の面からは、マスクの着用により人物の確認が難しくなり、人の往来という観点では、薬物の取引方法や密輸方法が影響を受けています。中でも薬物情勢に大きな影響を与えているのは、インターネットなどの普及・発展です。SNS（ソーシャルネットワークシステム）を利用した違法薬物に係る情報発信、密売の手段としての利用、違法薬物の注文から受領までを在宅で行える気軽さ、技術の発展にとともに、その技術が犯罪に活用されています。

（日本の薬物情勢）

さて、世の中が変わっていく中、日本における薬物事犯の数は減っていません。令和3年の薬物事犯の検挙人員は14,408人と近年は高水準のまま横ばいで推移しています。薬物別でみると、覚醒剤の検挙者数は減ってきていますが、依然トップで、その押収量も毎年1トンに迫る量が押収されており、今後も注意が必要です。次に検挙者数が多いのが大麻であり、急激な伸びを示しています。特に注意したいのが、大麻関連で検挙される若者の数が増えていることです。

（大麻問題）

若者の間で広がっている大麻については、海外で

の使用状況やインターネットを介した間違った情報により、大麻が安全であるかのような誤解や、大麻に関する情報に接する機会が増えてきているのも、その一因なのではないでしょうか。

令和3年までの検挙者数を見てみると、令和3年は5,783人と8年連続して増加し、過去最高を更新しました。「大麻乱用期」と確実に言える状況であり、とても危惧する状況になってきました。特に、検挙者のうち、30歳未満の若者が占める割合は68・0%、さらに若年者である20歳未満の検挙者は令和3年に初めて1,000人を記録し、30歳未満の検挙者数の25・4%を占めるようになりました。とても心配な状況です。

それ以外にも、海外の大麻栽培技術が進歩し、あたかも野菜工場のように大麻を水耕栽培できる段階まで技術が進歩し、日本でもそれをまねた大麻栽培事犯が増えてきています。また、大麻の有害成分であるTHC（テトラヒドロカンナビノール）を濃縮した大麻リキッドなる製品も海外から密輸されるようになり、見えた目は電子タバコのような外観ですが、その有害性は増しており、注意が必要です。

（インターネット等の普及）

若者の大麻への関心を掘り起こしている要因の一つに若者がよく使うSNSの普及が挙げられます。若者の情報源であり、交流サイトであり、ものを買う一つの手段にもなっています。また、海外では、嗜好用大麻が解禁されたとのニュースも散見され、そのような情報も若者を大麻に走らせる要因になっているのかもしれない。インターネット空間においては、どの情報を信じたらいいか、その選択権は利用者を与えられています。若いうちからの薬物教育や情報リテラシーの教育、啓発活動などが、今後、益々重要になってきます。

（密輸問題）

先に述べた大麻の違法栽培以外、日本で流通している違法薬物のほとんどが海外から密輸されています。覚醒剤、乾燥大麻、大麻リキッド、コカイン、MDMA、LSDなど、押収される薬物は、海外で製造されたものです。高価格で密売できる日本がターゲットになっています。国際的な人の往来が少なくなったこともあり、携帯による密輸犯罪は激減した一方、国際貨物や国際郵便などを使用する例が増えており、まとまって大量に送られてくることもあれば、少量を数多く送られてくることもあります。巧妙に違法薬物を隠して送られており、その隠匿方法は、より巧妙になっており、その密輸方法は、複雑化しています。日本では違法薬物がほとんど製造されていない現状を考えると、この複雑化した密輸をなんとかして食い止める必要があります。そのためにも、密輸に対する「待ち」の体制から、海外の犯罪者に対する「攻め」の体制を整えることも必要であり、海外の機関ともタッグを組んで違法薬物の国内流入を食い止めなければならない時代になりました。

以上のように、違法薬物を取り巻く状況は、社会の変化と共に日々変わっていきます。その犯罪の手段も日々、巧妙化、潜在化、複雑化が進み、これに對峙する捜査現場では、それらの技術に對応した知識や技術の習得が欠かせません。また、犯罪の広域化・複雑化に對應するためには、関係機関との協力が不可欠です。

一方で、それら違法薬物に国民が関与しないようにする一次予防としては、啓発活動が重要であり、国民の違法薬物に対する理解がより重要になってきます。日本全体の薬物問題を考える上では、取締りはもちろんのこと、国民の理解を得て、予防・啓発活動を行っていくかなければなりません。公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターをはじめ、国内外の関係機関とも協力し、薬物事犯のない社会の実現に向けた取り組みが必要になります。今後とも、様々な点で皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

薬物使用に関する全国住民調査2021より

はつめに

新型コロナウイルス(COVID-19)の勢いが収まりません。今年こそ、夏祭りやプールなど「いつもの夏休み」を過ごしたいと願っている人も多いと思います。しかし、2022年7月現在、第7波による新規感染者が急増しており、コロナ禍の収束は全く見えてきません。様々な場面での自粛生活に疲労やストレスを感じている人も少なくないでしょう。こうしたコロナ禍において、人々の薬物使用にはどのような変化がみられるのでしょうか。

国立精神・神経医療研究センターでは、地域住民における薬物使用の実態を調べるための全国調査を実施しています。これは「薬物使用に関する全国住民調査」と呼ばれる研究プロジェクトであり、アルコールや医薬品を含めた薬物使用の動向を把握することを目的としたわが国で唯一のモニタリング調査です。1995年から隔年で実施され、これまでに計14回の全国調査が実施されています。本稿では、2021年に実施された「薬物使用に関する全国住民調査2021」の結果の一部をご紹介します。この調査では、違法薬物のみならず、飲酒、喫煙、医薬品など薬物使用の実態を幅広く調べています。本稿ではその中から、大麻と医薬品に着目し、その使用実態やコロナ禍での変化をみていきます。

大麻については、ご承知の通り、大麻取締法違反による検挙者数が急増しています。令和3年版犯罪白書によれば、大麻取締法違反による検挙者は統計が公表されている昭和46年以降における最多記録を

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長

嶋根 卓也

更新し続け、令和2年における検挙者は5,260名(前年比15%増)でした。一方、依存症治療を行う精神科臨床では、処方薬や市販薬の依存症例の増加が報告されています^{2,3}。さらには、処方箋がなくても購入できる市販薬の乱用・依存についても若年層を中心に増加しており、風邪薬、咳止め薬、解熱鎮痛薬などが乱用の対象となっています。また、これらの医薬品の過量服薬(いわゆるオーバードーズ)による急性中毒も増加傾向にあります⁴。こうした背景を踏まえ、コロナ禍における大麻および医薬品使用(乱用)について把握することが重要と考えました。

薬物使用に関する全国住民調査2021

「薬物使用に関する全国住民調査」は、無作為に選ばれた15歳から64歳までの一般住民7,000名を対象とする全国調査です。2021年10月に、第14回目の全国調査を実施しました。2021年9月時点において、東京や大阪など計19都道府県に緊急事態宣言(第4回目)が発令されており、調査の中止や延期も検討しましたが、2021年10月にはすべての緊急事態宣言が解除され、それに合わせる形でどうにか調査をスタートさせることができました。なお、対象者のサンプリング方法などの調査方法は、第103号(2020年9月)に記載した内容⁵と同じです。詳細はそちらをご覧ください。

ここでは、今回の調査の主な変更点のみ触れておきます。第1の変更点としては、アンケート用紙の回収方法の選択肢を増やしたことです。従来の方法

では、調査員が対象者の自宅を訪問し、アンケート用紙の配布・回収を行っていました。しかし、今回は対象者および調査員の感染リスクを軽減するために、アンケート用紙の回収方法を(1)調査員による回収、(2)郵送返送、(3)インターネット回答から選べるように変更しました。スマートフォンやタブレット端末の普及により、インターネットによる回答を実施しやすい状況となりました。今回の調査では、年齢が比較的若い方がインターネット回答を選択しています。

第2の変更点としては、大麻と医薬品に関する新たな調査項目を追加したことです。まず、大麻については、使用場所(国内のみ/海外のみ/国内および海外)、および大麻の形状(乾燥大麻/大麻樹脂/ワックス・リキッド/食品)に関する質問を追加しました。これらの質問項目を追加した背景には、一定のルールに基づき、医療目的や嗜好目的での大麻使用が認められる国が増えていることや、電子タバコを用いた大麻製品(ワックスやリキッドタイプ)やTHCを含有する食品など新たな形状の大麻製品の流通が報告されていることが背景にあります。また、医薬品については、解熱鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬の乱用経験(過去1年以内)についても調べました。

大麻使用の結果と考察

(1)生涯経験

大麻の生涯経験率は、男性2.6%、女性0.4%、

コロナ禍における薬物使用の動向：

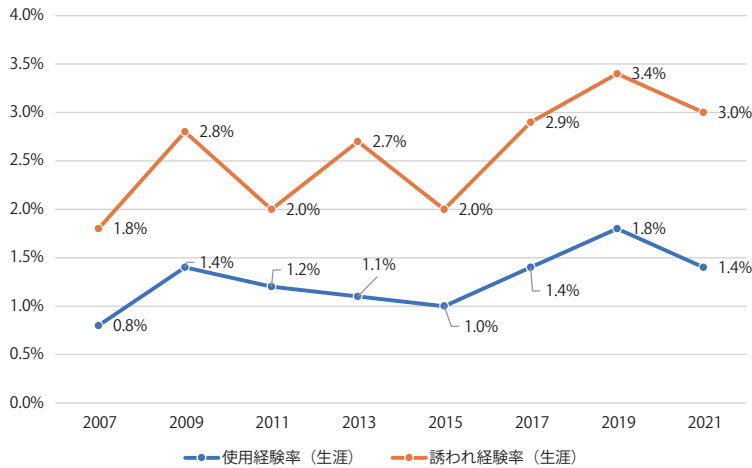


図1 一般住民(15-64歳)における大麻の生涯経験率の推移(2007-2021年)

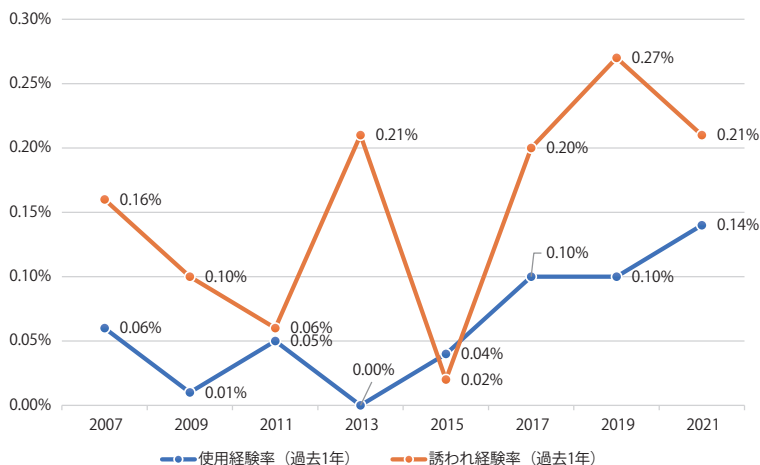


図2 一般住民(15-64歳)における大麻の過去1年経験率の推移(2007-2021年)

全体1・4%と推計されました。これを一般人口に当てはめると、男性約108万人、女性約20万人、全体128万人に該当します。図1に、2007年から2021年までの大麻の生涯経験率の推移をまとめました。生涯経験率については、2019年から2021年にかけて若干減少していますが、大きな時間の流れで捉えれば増加傾向にあると言えます。とはいえ、大麻の生涯経験率というのは、これまでの人生において一度でも大麻を使ったことがある人が占める割合のことです。したがって、過去の使用経験も含めますので、必ずしも現在の流行状況を反映した指標とは言えません。

(2) 過去1年経験
大麻の現在の流行状況を評価する指標としては、直近の経験を示す過去1年経験率の方がふさわしいと言えます。大麻の過去1年経験率は、男性0・24%、女性0・06%、全体0・14%と推計されました。この数字だけみると、大麻を使っている人はかなり少ないように感じると思いますが、これを一般人口に当てはめると、全国で約13万人が過去1年以内に大麻を経験したことになります。

図2に、2007年から2021年までの経年変化をまとめました。ご覧の通り、大麻の過去1年経験率は、2019年にピークを記録しています。

経験率は、2013年以降増加傾向にあります。因果関係は不明ですが、これは危険ドラッグ問題が終息した時期とほぼ同じ時期に該当します。合成カンナビノイド等の危険ドラッグの使用者の一部が、大麻に移行した可能性も考えられます。なお、2019年調査では、大麻使用者は約9万人と推計されていますので、2019年から2021年にかけてのコロナ禍に大麻使用者が約4万人増加したことになります。緊急事態宣言下において様々な行動制限がかけられていたにもかかわらず、大麻使用者は減っておらず、むしろ増加している可能性を示唆する結果と言えるでしょう。SNSやアプリを通じて売買が中心となっている大麻は、コロナ禍による行動制限の影響を受けにくいかもしれません。

一方、アルコールの使用率については、2019年から2021年にかけて大幅な減少がみられており、これはまん延防止措置などによる飲食店の営業時間の短縮などが背景にあると考えられます。

(3) 大麻使用に誘われた経験

違法薬物の自己使用については、「知られたいくない」「正直に答えにくい」といった回答バイアスが生じるおそれがあります。そこで本調査では、自己使用経験に比べて回答バイアスが生じにくい指標として、薬物使用に誘われた経験(生涯経験・過去1年経験)についても調べています。図1、2に示したように、大麻使用に誘われた経験は、自己使用経験を大きく上回っており、かつ増加傾向にあると言えます。2021年調査において、大麻使用に誘われた経験(生涯経験)は3・0%であり、一般人口の約33人に1人の割合に該当します。これは、私たちの生活に大麻がより身近に迫っていることを示すデータと言えるでしょう。

(4) 大麻の使用場所・形状

大麻の使用場所は、国内のみ55・3%、海外のみ19・1%、国内および海外14・9%、使用場所不明10・6%でした。これは、大麻使用が合法化（あるいは非犯罪化）されている海外（例えばカナダ）に渡航し使用するよりも、国内で流通している大麻を何らかの方法で入手し、使用している場合が多いことを示す結果と言えます。一方、使用した大麻の形状は、従来から流通していた乾燥大麻や大麻樹脂のみならず、ワックス・リキッドタイプの使用者や、THCを含有する食品の使用者も報告されました。これは、国内でも新たな形状の大麻製品が流通している可能性を示唆する結果と言えます。

ワックスやリキッドタイプの大麻製品には高濃度に抽出されたTHCが含有されている場合が多く、使用に伴う健康影響が危惧されています^{6,7}。こうした製品は電子タバコ（vape）で利用され、電子タバコの使用に伴う二次的な急性肺障害の発生が指摘されています。最近では、電子タバコまたはベープ製品関連肺障害（E-cigarette- or vaping product-associated lung injury）という言葉も使われるようになってます⁸。大麻に対する予防教育や啓発では、こうした新たな形状の大麻製品に関する情報やその健康影響についても触れていくことも重要です。

医薬品使用の結果と考察

(1) 解熱鎮痛薬の使用者の増加

2019年から2021年にかけて、解熱鎮痛薬の使用率が顕著に増加しました。例えば、過去1年使用率は63・1%から70・1%に、過去30日使用率は31・7%から42・3%に増加しています（図3）。その一方で、習慣的使用（週3日以上の使用と定義）には大きな変化がみられませんでした。これは恐らく、

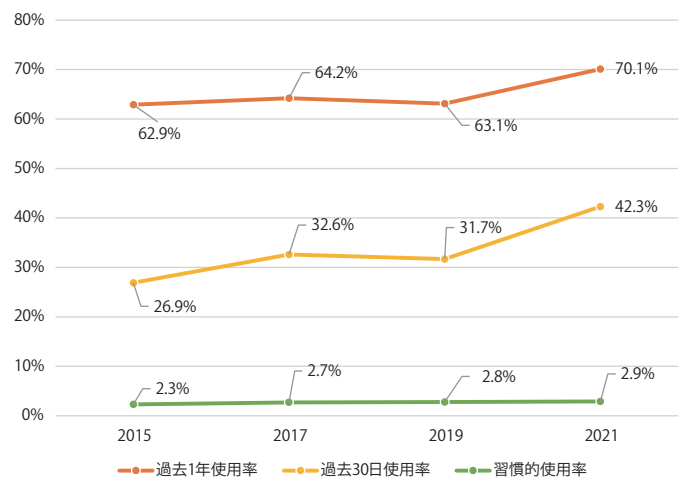


図3 一般住民(15-64歳)における解熱鎮痛薬の使用状況(2015-2021年)

(2) 精神安定剤および睡眠薬の習慣的使用の増加

新型コロナウイルスのワクチン接種に伴う発熱などの副反応への対処として、アセトアミノフェンなどの解熱鎮痛薬を短期間のみ使用したことを反映した結果と解釈できます。

精神安定剤および睡眠薬の使用状況で気になるのは、2019年から2021年にかけての習慣的使用率の増加です。例えば、精神安定剤について、女性では3・1%（2019年）から4・6%（2021年）と顕著な増加がみられる一方で、男性では横ばいで推移していました（図4）。つまり、コロナ禍において、精神安定剤や睡眠薬による定期的な治療を

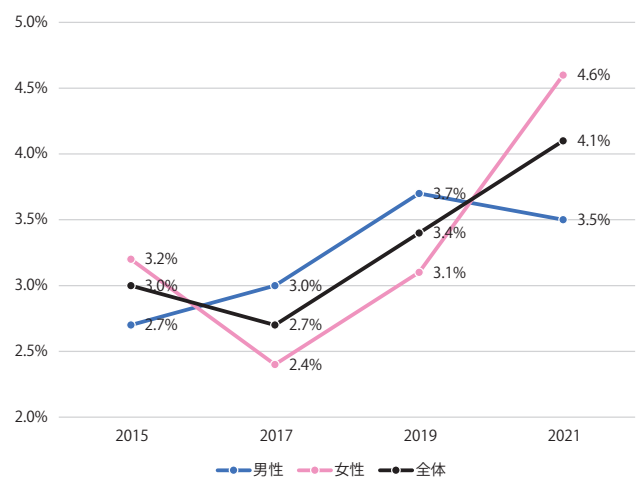


図4 一般住民(15-64歳)における精神安定剤の習慣的使用の状況(2015-2021年)

必要とするようなメンタルヘルス面での不調には性差があり、特に女性において顕著に影響を受けている可能性を示唆しています。

この結果は、COVID-19とメンタルヘルスとの関連性について調べた先行研究とも一致しています。例えば、オーストラリアの成人におけるコロナ禍の精神的苦痛を調べたインターネット調査によれば、Depression（抑うつ）およびAnxiety（不安）のスコアは男女差がなかったものの、Stress（ストレス）について女性のスコアが男性を有意に上回っていたと報告されています⁹。また、COVID-19のパンデミックがメンタルヘルスに与えるインパクトを調べた研究によれば、不安・抑うつ・PTSDに関連する危険因子として、女性であること、40歳以下であること、

表1 一般住民(15-64歳)における薬物使用率および使用者数の現状(2021年調査)

	使用率 (Total)			使用者数 (Total)		
	点推定値 point estimation (%)	95%CI		点推定値 point estimation (人)	95%CI	
		下限 lower	上限 upper		下限 lower	上限 upper
何れかの違法薬物 (Any illicit drugs)	0.36	0.22	0.61	325,909	156,893	494,925
大麻 (Marijuana)	0.14	0.06	0.36	128,304	10,846	245,763
有機溶剤 (Inhalants)	0.04	—	0.18	38,069	—	92,998
覚醒剤 (Methamphetamine)	0.06	—	0.19	51,392	—	112,285
MDMA (Ecstasy)	0.08	—	0.21	67,216	—	135,961
コカイン (Cocaine)	0.08	—	0.23	69,821	—	145,126
ヘロイン (Heroin)	0.10	0.04	0.23	89,459	13,617	165,300
危険ドラッグ (NPS)	0.09	—	0.26	77,522	—	161,615
LSD	0.08	—	0.26	70,611	—	155,103
何れかの医薬品乱用 (Any medication misuse)	0.94	0.65	1.35	837,831	537,870	1,137,792
解熱鎮痛薬 (Painkillers)	0.57	0.37	0.89	513,050	292,251	733,849
精神安定薬 (Tranquilizers)	0.43	0.24	0.78	384,037	157,190	610,883
睡眠薬 (Sleeping pills)	0.09	—	0.27	77,595	—	166,206
何れかの薬物乱用 (Any drug abuse)	1.27	0.94	1.73	1,139,676	799,109	1,480,244

出典：文献1から引用し、一部加筆・修正を加えた。過去1年使用率および使用者数の推計値を表記した。

「—」統計誤差内のため推計不能

(3) 医薬品の乱用経験

慢性疾患を有すること、無職であること、学生であること、COVID-19に関連したSNSやニュースに頻繁にアクセスしていることなどが報告されています¹⁰⁾。

過去1年以内に医薬品の乱用経験(医療目的ではない使用方法)のある一般住民は、解熱鎮痛薬0・57%(約51万人)、精神安定薬0・43%(約38万人)、睡眠薬0・09%(約8万人)と推計されました(表1)。解熱鎮痛薬および睡眠薬の乱用経験率については、大麻などの違法薬物の使用率を大きく上回っています。また、男性に比べて女性の乱用経験率が高く、15〜19歳の若年者の乱用率が最も高いといった属性上の特徴もみられています。

近年、依存症治療を行う精神科臨床において、処方薬や市販薬の乱用症例が増加していることが繰り返し報告されています。処方薬については、エチゾラム(デパス®など)、フルニトラゼパム(サイレース®など)、トリアゾラム(ハルシオン®など)といったベンゾジアゼピン系の睡眠薬・抗不安薬や、非ベンゾジアゼピン系の睡眠導入薬であるゾレピデム(マイスリー®など)の乱用症例が高頻度で報告されています。一方、市販薬としては、エスエスブロン錠®、新ブロン液エース®などの鎮咳去痰薬、パブロンSゴールドW®やパブロンゴールドA®などの総合感冒薬、ナロンエース/ナロン®などの解熱鎮痛薬、ウット®などの鎮静剤による乱用症例が高頻度で報告されています。現在、市販薬乱用への対策として、いくつかの成分を「濫用等のおそれのある医薬品」として指定し、販売規制(原則、薬効分類ごとに1人1包装単位で販売する)がかけられています。しかし、市販薬を販売する薬局やドラッグストアの数は多く、規制緩和の流れからインターネットでも購入が可能な状態となっています。こうした入手可能性の高さ

を考えると、販売個数の制限だけでは、根本的な解決は難しい状況にあります^{11) 12)}

本研究では、乱用の対象となった具体的な製品名を特定することができないという限界もあります。が、わが国の一般住民を対象とした全国調査において、乱用経験率および乱用経験者数の推定を行った初めての試みと言えます。次回調査においても引き続きモニタリングを継続しながら、その経年変化を追う必要があります。

まとめ

本稿では、「薬物使用に関する全国住民調査2021」より、大麻および医薬品に関する調査結果に着目した解説を行いました。コロナ禍において、大麻を使用する一般住民(過去1年以内)は、約9万人(2019年)から約13万人(2021年)に増加しました。また、大麻使用者の過半数は国内のみで大麻を使用していることが明らかとなり、ワックス・リキッドなど新たな形状の大麻製品の使用も確認されました。医薬品使用については、精神安定薬および睡眠薬を習慣的に使用する女性が顕著に増えており、コロナ禍におけるストレスやメンタルヘルス面での不調との関連性が考えられました。今回の調査では、医薬品の乱用経験(医療目的ではない使用方法)を初めて調査し、過去1年以内に乱用経験のある一般住民は、解熱鎮痛薬0・57%(約51万人)、精神安定薬0・43%(約38万人)、睡眠薬0・09%(約8万人)と推計されました。詳しい調査結果は、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部のホームページで研究報告書を公開していますので、ご覧くださる。

文献

1 嶋根卓也、他：薬物使用に関する全国住民調査

(2021年)、令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究(研究代表者：嶋根 卓也)」分担研究報告書、pp7-143。2022。https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NGPS_2021.pdf

2 松本俊彦、他：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査、令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究(研究代表者：嶋根卓也)」総括・分担研究報告書、pp41-104。2021。https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NMHS_2020.pdf

3 Shimane T, et al: Proposed indicators for Sustainable Development Goals (SDGs) in drug abuse fields based on national data in Japan. Journal of the National Institute of Public Health 70(3): 252-261, 2021.

4 OTC薬の過量服薬による救急搬送「コロナ禍」2.3倍に、日経メディカル、2022.5.16。https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/member/pub/hotnews/int/202205/575008.html

5 嶋根卓也：薬物乱用状況のアップデート：薬物使用に関する全国住民調査2019より、Newsletter KNOW(麻薬・覚せい剤乱用防止センター)第103号：2-5。2020。https://www.dapc.or.jp/torikumi/no103/103.pdf

6 Tai H, Swartz MD, Marsden D, Perry CL. The Future of Substance Abuse Now: Relationships among Adolescent Use of Vaping Devices, Marijuana, and Synthetic Cannabinoids. Subst

Use Misuse. 2021;56(2):192-204. doi: 10.1080/10826084.2020.1849305. Epub 2021 Jan 8. PMID: 33412950.

7 Traboulsi H, Cherian M, Abou Rjeili M, Preteroti M, Bourbeau J, Smith BM, Eidelman DH, Bagiole CJ. Inhalation Toxicology of Vaping Products and Implications for Pulmonary Health. Int J Mol Sci. 2020 May 15;21(10):3495. doi: 10.3390/ijms21103495. PMID: 32429092; PMCID: PMC7278863.

8 Cherian SV, et al: E-Cigarette or Vaping Product-Associated Lung Injury: A Review. Am J Med. 2020 Jun;133(6):657-663. doi: 10.1016/j.ajmed.2020.02.004. Epub 2020 Mar 13. PMID: 32179055.

9 Stanton R, To QG, Khalesi S, Williams SL, Alley SJ, Thwaite TL, Fenning AS, Vandelanotte C. Depression, Anxiety and Stress during COVID-19: Associations with Changes in Physical Activity, Sleep, Tobacco and Alcohol Use in Australian Adults. Int J Environ Res Public Health. 2020 Jun 7;17(11):4065. doi: 10.3390/ijerph17114065. PMID: 32517294; PMCID: PMC7312903.

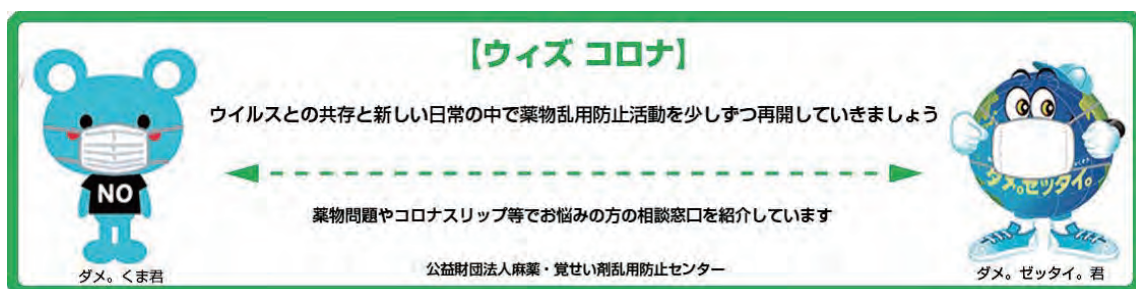
10 Xiong J, Lipsitz O, Nasri F, Lui LMW, Gill H, Phan L, Chen-Li D, Jacobucci M, Ho R, Majeed A, McIntyre RS. Impact of COVID-19 pandemic on mental health in the general population: A systematic review. J Affect Disord. 2020 Dec 1;277:55-64. doi: 10.1016/j.jad.2020.08.001. Epub 2020 Aug 8. PMID: 32799105; PMCID: PMC7413844.

11 嶋根卓也：市販薬乱用・依存の実態と今後の課題、臨床精神薬理24(12)：75-84, 2021.

12 嶋根卓也：市販薬乱用とヤクルンメディケーション、精神科治療学37(7)：793-797, 2022.

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和4年度の啓発活動状況

～新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえて～



厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)、警察庁など関係省庁の協賛及びボイースカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」を、6月27・28日を中心として約一ヵ月間、各都道府県で実施する予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度も昨年度と同様に、地域の実情に配慮した上で実施することとなりました。

本普及運動は、国内における薬物乱用防止活動において官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に関する意識を高めるとともに国連総会決議に基づく「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図ることにより、内外における薬物乱用防止に資することを目的としています。

この普及運動と並行して、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、感染拡大防止を踏まえた都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン

厚生労働大臣メッセージ

今日、覚醒剤、大麻、麻薬などの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物を乱用すると、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々にも大きな影響を与えるため、絶対に使用してはいけません。

大麻の検挙者数が五年連続で過去最多を更新し続けています。とりわけ、若年層の大麻乱用が顕著で、大麻の検挙者数の約七割を三十歳未満が占めています。

SNS等では、「大麻は害が少ない」といった誤った情報が拡散していますが、大麻は脳に影響を及ぼすものであり、若年期からの大麻使用が乱用と依存の危険性を高めることが懸念されています。

覚醒剤、大麻、麻薬などの薬物乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇氣を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用の無い社会を作ってくださいましょう。

令和四年六月二十五日

厚生労働大臣 後藤茂之

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・啓発メッセージ動画の放映状況

●スタジアム



【東京ドーム】



【横浜スタジアム】

●屋外大型ビジョン



【109 フォーラムビジョン(渋谷/ハチ公前)原宿表参道ビジョン(神宮交差点)】

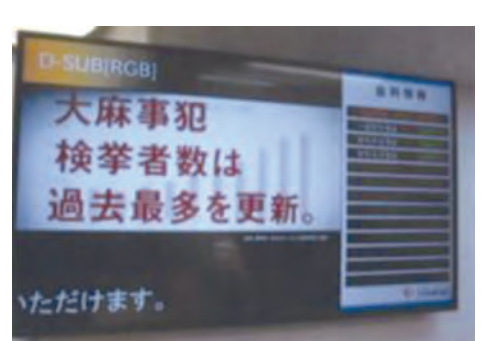
●大分県における放映状況



【県庁内デジタルサイネージ】



【県庁内ワクチン接種センター】



【大分県信用組合デジタルサイネージ配信状況】

北海道

月 日	6月20日から7月19日まで (地区により新型コロナウイルス感染症の影響により、時期を変更して実施)
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会(21地区)、ヤングボランティア(ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等)、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止。

② 地域団体キャンペーン
道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー、関係行政機関等の協力を得て、麻薬・覚醒剤等の乱用防止に関するリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱設置等の協力要請。



北海道

青森県

月 日	6月26日
開催場所	(弘前市)さくら野百貨店弘前市
活動主体	主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体 一般社団法人弘前薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、青森県薬物乱用防止指導員弘前地区協議会、青森県
参加人数	(弘前市)86名

活動状況

6・26ヤング街頭キャンペーン
例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をすることもに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行っているところである。令和4年度については、新型コロナウイルス感染症流行の状況を踏まえ、弘前市のみで実施した。



青森県

岩手県

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、街頭キャンペーン未実施。 ② 地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。
------	--



岩手県

宮城県

活動状況

6・26ヤング街頭キャンペーン
昨年に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から県主催のキャンペーンは中止とした。
地域団体キャンペーン
各地区で行われる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動については、各地区の実情に合わせて実施するように通知した。

秋田県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	北秋田市ふれあいプラザ コムコム（パネル展示） 能代市役所（ポスター展示）
活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会 ・大館鹿角地域実行委員会 ・本荘由利地域実行委員会 ・鷹巣阿仁地域実行委員会 ・大曲仙北地域実行委員会 ・能代山本地域実行委員会 ・横手平鹿地域実行委員会 ・秋田周辺地域実行委員会 ・湯沢雄勝地域実行委員会
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、イベントは中止 鷹巣阿仁地域実行委員会が主体でパネル展、能代山本地域実行委員会が主体でポスター展示会を開催 ②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ（趣旨の周知、募金への協力）、新聞広告による周知を行った。
参加人員	6人（①6・26ヤング街頭キャンペーン）
活動主体	山形県、県内各関係団体
開催場所	①6・26ヤング街頭キャンペーン…JR山形駅東西自由通路 ②地域団体キャンペーン…県内各地
月 日	6月20日～7月19日
開催場所	山形県、県内各関係団体

山形県

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン（6月26日（日）13：30～15：00）
JR山形駅東西自由通路において、薬物乱用防止啓発パネルとのほりを掲示し、薬物乱用の危険性の周知を図った。また通路歩行者に対し、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のリーフレット、薬物乱用防止啓発ティッシュ等の配布を行った。
②地域団体キャンペーン
39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。
③その他
県・各公所でポスター、募金箱を設置し、薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。新聞に掲載される県政広報欄や県政ラジオ広報、県政SNSでの薬物乱用防止の呼びかけを行った。
県ホームページにポスター等を掲載し「ダメ。ゼッタイ。」普及運動について広く県民に広報した。
県庁ロビーに設置されたモニターで「それってホント？事例でみる薬物乱用DVD」と「令和4年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動キャンペーン啓発メッセージ動画」を放映し、薬物乱用防止を強く呼びかけた。

秋田県

山形県

福島県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	二本松市、会津若松市、喜多方市、会津美里町、いわき市 計5ヶ所（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して実施した。なお、8月に郡山市にて、奥羽大学薬学部学生と共同で地域団体キャンペーンを実施予定。）
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内16地区）、関係団体
活動状況	①地域団体キャンペーン 関係行政機関、企業、薬局、中学校、高校、専門学校、大学、警察署等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行うとともに、国連支援募金活動を通じて、一般住民等への啓蒙活動を行った。若年層への啓発活動においては、若者を含む多くの人の目に触れやすい駅や自動車教習所、又、高等学校登校時等に啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 ②その他 41協賛団体に対して、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。

福島県

茨城県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	①6・26街頭キャンペーン…水戸市(他の地域では新型コロナウイルス感染症拡大のため学校やショッピングセンターの展示スペースでのパネル・バスターの展示、資材配布を実施) ②地域団体キャンペーン…県内各地
活動主体	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、関係団体、関係機関
参加人員	72名(水戸市 キャンペーンの参加人数)
活動状況	①6・26街頭キャンペーン 水戸駅前で薬物乱用防止指導員、薬事関係団体、ライオンズクラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、リーフレット、マスク、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、その他の地区においては、新型コロナウイルス感染症拡大のため学校やショッピングモールの展示スペースにおいて、パネルやバスターの展示、啓発資材の配布を実施した。 ②地域団体キャンペーン 県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、バスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ③その他 夏季茨城県高等学校野球大会会場(5球場)において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビ視聴者に対する啓発を行った。 また、茨城空港、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。大洗駅、県庁2階広報コーナーにおいて、啓発メッセージ動画の放映を行った。

栃木県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	県内一円
活動主体	栃木県、宇都宮市
参加人員	約160名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン



茨城県

群馬県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	6・26ヤング街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 県内各地区において地域団体キャンペーンを実施した。
活動主体	群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡会議、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議(12地区)、関係団体(薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等)
活動状況	①地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、バスター掲示や店頭リーフレットやポケットティッシュの設置、募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が見られる状況を鑑み、街頭キャンペーンは実施しないこととした。

②地域団体キャンペーン
県内の各市町、警察署、各関係機関等の協力を得て啓発バスターの掲示やリーフレットの配布を行った。また、来庁者に対してリーフレットや啓発資材を配布したり、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③その他
県ホームページや県公式Twitter、地元テレビの県政報道企画を活用し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、県庁の企画展示コーナーに薬物乱用防止に関する展示をしたり、県内の小学5・6年生、中学生及び高校生に対して啓発リーフレットを配布するなど、薬物に関する正しい知識の普及啓発に努めた。

- ②各市町村教育委員会・警察署の協力を得て、各小・中・高等学校内や警察署内でポスターを掲示した。
- ③保健所等の関係施設の敷地内に横断幕やのぼり旗を設置し、地域住民に周知した。
- ④市町村の広報誌やラジオ、インターネット等を活用し、広く住民に広報した。
- ⑤7月9日から27日までの期間、第104回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。
- ⑥7月2日にサスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。

埼玉県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	イオンモール川口前川店、JR武蔵野線北朝霞駅及び東武東上線朝霞台駅ロータリー付近、越谷市民球場、JR大宮駅東西連絡通路、アリオ鷲宮
活動主体	埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ3301C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など
参加人数	約1000人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 駅頭等において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット及びうちわ等の啓発資材を配布した。 ②地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。 ③その他 県広報誌や市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業へリーフレットを配布し、国連支援募金の呼びかけを行った。



埼玉県

千葉県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	行政機関(県庁、保健所)等
活動主体	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、街頭キャンペーンは中止とした。 ②地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理容生活衛生同業組合、美容業生活衛生同業組合、クリーニング生活衛生同業組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。 ③広報啓発活動 県ホームページ、ツイッター、テレビ、ラジオCM等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。



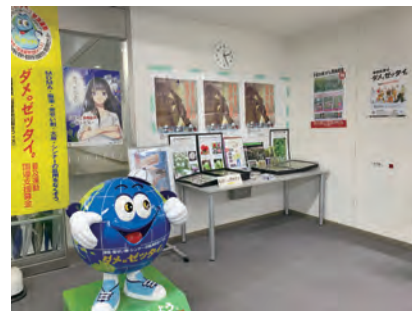
東京都

月 日	6月20日から7月19日まで
開催場所	行政機関(都保健所 他)
活動主体	東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会 関係行政機関、関係民間団体 等
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、「令和4年度『6・26国際麻薬乱用撲滅デー』都民の集い」の開催を中止とした。 ②地域団体キャンペーン 関係行政機関及び民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。 また、関係行政機関において薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。 ③その他 都ホームページ、都広報誌、新聞などのメディアや、都保健所のデジタルサイネージを活用し、薬物乱用防止に関する内容を掲載した。 また、Twitter、YouTube、LINE、Yahoo! 啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。



千葉県

神奈川県



東京都
(東京都健康安全研究センター)

月 日	7月15日ほか
開催場所	横浜スタジアム等
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議(薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体)、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	約1700名(横浜スタジアム)
活動状況	薬物クリーンかながわ推進会議が中心となり、「ダメ。ゼッタイ」普及運動の実施期間中に県内各地において、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 特に、7月15日に横浜スタジアムにおいて、県警察本部等と共に「ダメ。ゼッタイ」普及運動街頭キャンペーンを実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君」も駆けつけ、リーフレット等の啓発資料の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やポスターを活用し、普及啓発を行った。 その他、県内大学において各大学が学生向けの情報提供を目的に開設しているサイトを活用し、県内の大學生に向けて薬物乱用防止を呼び掛けた。

新潟県



神奈川県

活動主体

新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部(新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京出入国在留管理局新潟出張所、一般社団法人新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会)、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟連盟、国際ロータリー第2560地区ガバナー事務所、ライオンズクラブ国際協会3331A地区、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、一般社団法人新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸動務薬剤師会新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟、新潟県ラグビーフットボール協会

活動状況

- ①新潟県警察ノードラッグ大使の動画を活用したSNS広告
新潟県警察ノードラッグ大使のZeico(アイドルユニット)からいただいたメッセージ動画をYouTubeに広告として掲載し、薬物乱用防止を呼びかけた。
※「6・26ヤング街頭キャンペーン」の代替となる普及啓発活動
- ②若年層への薬物乱用防止講演会
新潟県警察と連携し、専門学校の学生向けに講演会を開催した。
- ③その他
全国高等学校野球選手権大会期間中、会場のハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止啓発の横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発した。
県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に国連支援に係る募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。



新潟県

富山県

活動主体

富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会(41団体)

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、街頭キャンペーンは中止とした。

② 地域団体キャンペーン

富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会参加団体の協力を得て、店頭等でのポスターの掲示や啓発資材の配布を行った。また、国連支援募金運動への協力を呼び掛けた。

③ その他

第104回全国高等学校野球選手権富山大会において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

県が設置するコロナワクチン接種センターにおいて、ワクチン接種者に対して啓発資材・パンフレットを配布した。

交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。



富山県



石川県

活動主体

県、警察本部、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
中止

② 地域団体キャンペーン

6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示して啓発を図るとともに、募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼び掛けた。

③ その他

7月8日から開催された第104回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、横断幕・ポスターを掲示し球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。

県が設置したワクチン接種センターにおいて、特設コーナーを設け、接種に訪れる人を対象に啓発資材・パンフレットを配布した。

いしかわ総合スポーツセンターにおいて、関係機関の協力を得て、特設コーナーを設け、施設に訪れる人を対象に啓発資材・パンフレットを配布した。



石川県



福井県

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン
例年ショッピングセンター等で実施していた街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、中止とした。

② 地域団体キャンペーン

病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発ポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、薬物乱用防止の普及啓発と国連支援募金への呼びかけを行った。

③ その他

6月20日から1週間、福井県庁1階ホールで薬物乱用防止啓発パネル展を実施した。また、キャンペーン期間に限らず、各学校の要望に応じて薬物乱用防止啓発パネル展および薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。



福井県

山梨県

月 日	6月20日から7月19日
開催場所	県内各関係団体
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、クリーニング生活衛生協同組合、学校、ボイススカウト、ガールスカウト等
参加人員	約750人
活動状況	地域団体キャンペーン 各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともにポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。



山梨県

長野県

活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会 員会参画4機関・22団体 県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボイススカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟
------	--

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン(中止) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度の街頭キャンペーンは中止した。 ②地域団体キャンペーン 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。 また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭で募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。 ③その他 FM長野でラジオスポットCMを放送し、広報啓発を行った(実施回数:15回)
------	--

岐阜県

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン (中止) ②地域団体キャンペーン 岐阜県薬物乱用推進本部を構成する各関係団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。
------	--

静岡県

月 日	①②6月27日 ③6月29日 ④7月14日
開催場所	①静岡県立下田高等学校(下田市) ②JR沼津駅(沼津市) ③JR静岡駅(静岡市) ④JR藤枝駅(藤枝市)
活動主体	一般社団法人日本ボイススカウト静岡県連盟、一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-C地区、国際ロータリー第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、公益社団法人静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県クリーニング生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、一般社団法人静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケBOX協会、日本塗料商業組合静岡県支部

活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 6月27日、6月29日及び7月14日に、県内の主要な駅や高等学校の計4か所において、市、県警及び薬物乱用防止指導員の協力を得て、リーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、薬物乱用防止の声掛けを行い、広く県民に対し薬物乱用防止を訴えた。 ②地域団体キャンペーン 各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所においてポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への協力の声掛けを行った。 ③その他の啓発活動 ・7月9日にヤマハスタジアム(磐田市)で開催されたJリーグサッカー試合会場(ジュビロ磐田VSヴィッセル神戸戦)において、来場者にポケット
------	--



静岡県

- ・ ティッシュの配布及び薬物乱用防止の声掛けを行うとともに、ハーフタイムに横断幕、のぼり旗及び「ダメ。ゼッタイ。」くん着ぐるみによる場内周回啓発を行った。また、試合会場に設置されたマルチビジョンにおいて、県独自で制作した大麻乱用防止啓発動画(15秒)の発信を行った。
- ・ 県内1局の地上デジタルテレビ及びケーブルテレビ1局においてヤング街頭キャンペーンの実施状況を放送した。
- ・ 県内2局の地上デジタルテレビのデータ放送及びケーブルテレビ3局において「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の広報スポットを放送した。
- ・ 県内2市の広報紙及び県内新聞3紙に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び薬物乱用防止に関する記事を掲載した。
- ・ 県内ラジオ放送局1局に出演し、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の広報を行った。
- ・ 県庁や商業施設等のデジタルサイネージにおいて、県独自に制作した大麻乱用防止啓発動画(15秒)の発信を行った。
- ・ 保健所において、薬物乱用防止啓発パネル等によるパネル展示を開催するとともに、商業施設等においてポスター掲示や、リーフレット・ポケットティッシュの配架等を行った。
- ・ 静岡県や静岡県教育委員会の公式LINE、Facebook、InstagramなどのSNSを活用して「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及び薬物乱用防止に関する情報発信を行った。

愛知県



静岡県

月 日	6月26日、7月13日
開催場所	愛知県内
活動主体	愛知県
参加人員	35名
活動状況	・ 県、保健所等において、募金箱の設置及び啓発資材の配布を行った。 ・ 名古屋市中区商店街において、ヤング街頭キャンペーンを行った。ボーイスカウトや愛知県警察と啓発資材(ウェットティッシュ)を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 ・ 大相撲名古屋場所において、愛知県警察等と啓発資材の配布や横断幕の設置を行った。 ・ プロ野球中日ドラゴンズ試合開催時のバンテリンドームナゴヤ、名古屋競馬場などで、場内放送、電光掲示板等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。



三重県



愛知県

月 日	6月20日から7月19日
開催場所	三重県桑名保健所、くわなメディアライヴ、JR桑名駅前、イオン桑名店、ジャズドリーム長島、三重県桑名庁舎1階ロビー、三重県四日市庁舎、なやプラザ、四日市市総合会館、波木町公会所、あがたが丘集会所、悠彩の里コミュニティセンター、近鉄四日市駅北口ふれあいモール、三重県鈴鹿保健所、近鉄白子駅前、鈴鹿市ふれあいセンター、MEGADON・キョーテU・N・Y鈴鹿店、亀山市内コミュニティセンター、三重大学生協同組合(第1食堂)、三重県立看護大学、三重県立津高等学校、三重県立津西高等学校、三重県立津東高等学校、三重県松阪庁舎、松阪市健康センターはるる、大台町役場、多気町役場、明和町役場、三重県伊勢庁舎ロビー、イオン阿見店、バロミタス伊勢店、三重県伊賀庁舎1階ロビー及び2階フロア、アピタ伊賀上野店、近鉄名張駅前、三重県尾鷲庁舎1階ロビー、熊野市記念通り商店街、三重県立紀南高等学校計37ヶ所

活動主体

主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会

参加人員

352人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

県内の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。

ポスターの掲示や薬物標本の展示、横断幕やのぼり旗を掲揚するとともに、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。

他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。

② 地域団体キャンペーン

三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

なお、地域によっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮し、例年通りの街頭啓発は実施せず、県庁舎等において、ポスターの掲示、啓発資材の配布等により、来庁者への薬物乱用防止を訴えた。



三重県

滋賀県

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

街頭啓発に代えて量販店（2店舗）に薬物乱用防止啓発ポスターを設置し、啓発を行った。

② 地域団体キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。

京都府

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、6・26ヤング街頭キャンペーンは中止とした。

その代わりとして、府内保健所等に募金箱を設置し、ポスター等を用いた国連支援募金への協力の呼びかけを行った。

また、下記画像のとおり、ポスター等の掲示による啓発を行った。

② 地域団体キャンペーン

府内各種関係団体に対し、店頭等でのポスターの掲示や募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への協力呼びかけを行った。

また、府内各大学・専門学校等に対し、ポスター掲示を依頼し、若年層への薬物乱用防止の呼びかけを行った。

その他、各地区薬物乱用防止指導員により小中学校の児童等を対象とした薬物乱用防止教室及びリーフレットの配布が行われ、薬物の危険性を伝えると共に本運動の周知がされた。



京都府



大阪府

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	行政機関、協力団体
活動主体	大阪府、大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、大阪府薬物乱用防止指導員協議会、関係行政機関、関係民間団体等
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止とした。 ② 地域団体キャンペーン 関係機関、協力団体・企業等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配架等を実施するとともに、国連支援募金箱を設置することで、啓発並びに募金協力呼びかけを行った。また、7月の「少年非行・被害防止強調月間」に合わせて、イベント会場等においてポスター掲示、啓発メッセージ映像の放映、リーフレット・啓発物品の配布を行い、薬物乱用防止を訴えた。 ③ その他 府ホームページや府広報誌、公式Facebook・Twitter、市町村広報誌等を利用した運動の周知並びに啓発を図った。



大阪府

兵庫県

月 日	6月16日、6月18日、6月25日、6月26日
開催場所	芦屋市、宝塚市、川西市、高砂市、明石市、小野市、姫路市、宍粟市、豊岡市、丹波市、南あわじ市、西宮市 計12か所
活動主体	兵庫県、保健所設置市、兵庫県薬物乱用防止指導員協議会、各地区薬物乱用防止指導員協議会、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等
参加人員	282人
活動状況	本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮しつつ、地域の実情に応じて、県下10地区で街頭啓発キャンペーンを実施した。 街頭啓発キャンペーンでは、活動参加者は啓発用ビブスを着用し、マスク等の着用や人の滞留が無いよう活動範囲を点在させる等の感染拡大防止対策を講じつつ、啓発資材（リーフレット、ウェットティッシュ、ボールペン等）を配布するほか、のぼり掲掲、館内放送や着ぐるみ（兵庫県マスコットキャラクター「はばたん」及び兵庫県薬物乱用対策推進会議マスコットキャラクター「まやたん」使用）等により薬物乱用の害や危険性を訴えた。 また、街頭啓発キャンペーンを実施しなかった2地区では、地域住民の利用が多い駅前に横断幕及びのぼりを設置したり、若年層の利用者が多いレジヤ施設内にリーフレットやウェットティッシュを設置したり等により、地域住民への啓発を行った。



兵庫県

奈良県

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ② 地域団体キャンペーン 関係団体やショッピングモール等に、啓発ポスターの掲示や募金箱の設置を依頼し、啓発を行うと共に国連支援募金への協力を呼びかけた。
------	--

和歌山県

月 日	6月25日、6月26日、7月1日 ほか
開催場所	和歌山市、岩出市、紀の川市、九度山町、海南市、有田市、有田川町、由良町、田辺市、串本町、古座川町、新宮市、那智勝浦町、太地町内の計18カ所
活動主体	和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部
参加人員	延べ261人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内各地域の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県警察、和歌山海上保安部、大阪税関和歌山税関支署、各市町村少年センター、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンター前などで、のぼりを掲げ「薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュなどの啓発物品を配布した。 ② 地域団体キャンペーン 関係団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。

鳥取県

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、街頭キャンペーンについては、県内各地区とも中止とした。

② 地域団体キャンペーン

各団体はもとより、各市町村及び県庁並びに県地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めた。また、国連支援募金への協力依頼を実施した。その他、「子ども向け薬物乱用防止リーフレット」を作成し、県内の関係機関や学校へ配布した。



和歌山県



鳥取県

島根県

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。

② 地域団体キャンペーン

市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資料の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

岡山県

活動状況

6月2日、20日、21日、22日、23日、24日、29日、7月1日、8日、17日

開催場所

「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会（県下9地区）管内
（岡山市、備前市、和気町、倉敷市、総社市、浅口市、笠岡市、津山市、勝央町、美作市、真庭市、高梁市、新見市）」

活動主体

県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会（医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協助力連合会、愛育員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ3360B地区）、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部

参加人員

約300名

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

・「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会（県下9地区）」が中心となり、高等学校等県下15箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用啓発資料（パンフレット、ポケットティッシュ、ボールペン、クリアファイル等）を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、国連支援募金を実施した。

「参加学校」

備前緑陽高等学校、和気閑谷高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、岡山龍谷高等学校、おかやま山陽高等学校、美作高等学校、津山中学・高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校、真庭高等学校落合校地、高梁日新高等学校、新見高等学校北校地、新見高等学校南校地、共生高等学校

・日本プロサッカーチームであるフアジーアノ岡山のホーム公式戦において、「岡山県民応援デー」を実施し、パネル展示や普及啓発資料を配布した。

② 地域団体キャンペーン

関係機関の窓口等へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。



岡山県



広島県

月 日	6月20日～7月19日
活動主体	広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施を見送った。 ② 地域団体キャンペーン 計46の関係団体が店頭等へのポスターの掲示及び一声運動を実施した。 ③ その他 ・薬務課及び県保健所のホームページに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動についてのページを作成、掲載した。 ・広島県公式「witter」において「ダメ。ゼッタイ。」普及運動について広報した。 ・保健所内の掲示スペース、ショッピングセンター等に啓発資材を設置（ポスター掲載、リーフレット・パネル設置等）した。 ・6月28日（火）広島東洋カープ県市合同応援デーにおいて、来場者に対し啓発資材（リーフレット・ポケットティッシュ）を配布した（写真参照）。 ・ラジオに出演して薬物乱用防止について県民に広報した。 7月4日～7月8日 18:30～ FMみはら イブニングスペシャル「安全安心一口メモ」 薬物乱用防止の啓発活動について、パーソナリティと対話形式で放送（録音） 7月4日（月）…広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動について 7月5日（火）…薬物の種類（覚醒剤と大麻を中心に）について 7月6日（水）…医薬品乱用について 7月7日（木）…危険性＆実際身近にあるもののなか？ 7月8日（金）…薬物を断ち切るためにどのような事ができるか？

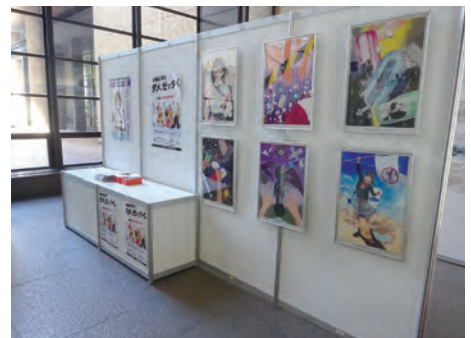
山口県



広島県

月 日	6月20日～7月1日、7月17日
開催場所	山口県庁
活動主体	山口県健康福祉部薬務課
参加人員	38人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の流行状況に鑑み、幅広な期間内の実施や規模の縮小等を含め、地域の実情に応じた実施とした。 ② 地域団体キャンペーン 山口県庁において、薬物乱用防止普及啓発に係るポスターや令和3年度薬物乱用防止ポスターの入賞作品の展示を行った。また、啓発物（リーフレット、クリアファイル等）も配置し、薬物乱用の恐ろしさを来庁者に訴えた。（6月20日～7月1日） また、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や、リーフレットの配布を行った。 ③ その他 薬物乱用防止啓発のデジタルチラシ（タブレットや電子掲示版用）を作成し、山口県内の高等学校等へ配布した。

徳島県



山口県

月 日	6月20日から7月19日まで（地域団体キャンペーン）
開催場所	県下一円（地域団体キャンペーン）
活動主体	県、県薬物乱用防止協議会（県下6地区協議会）、三好警察署生活安全課、阿波池田ライオンズクラブ、池田高校JRC部等
参加人員	三好警察署生活安全課2名、阿波池田ライオンズクラブ7名、池田高校のJRC部15名
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、例年実施してきた6・26ヤング街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響のため、中止となった。 三好地区においては、三好地区協議会薬物乱用防止指導員と三好警察署職員が6月24日にスーパーマーケットで薬物乱用防止の呼び掛けや啓発資材の配布を行った。 また、阿波池田ライオンズクラブ会員と池田高校のJRC部員が6月27日に同校前で薬物乱用防止の呼び掛けや啓発資材の配布を行った。

②地域団体キャンペーン
薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ」普及運動のポスターの掲示や募金箱の設置行い、国連支援募金活動を実施した。



徳島県

香川県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	瓦町フラッグ8階市民交流プラザIKOD E瓦町、こどもさくら公園、JR高瀬駅、観音寺市一円、三豊市一円 計5箇所
活動主体	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚醒剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小
参加人員	約1,300人(見学人含む)
活動状況	県下4カ所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となつて、市町、警察署、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、その他医療・衛生関係機関等の協力を得て、県内の各施設において募金箱の設置やポスターの掲示



香川県

を行った。
街頭での啓発活動としては、駅前や公園等で、チラシやポケットティッシュ、リーフレット等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。また、地元の高校生が樽太鼓を演奏し、薬物乱用の防止を啓発した。
西讃地区においては、公用車に薬物乱用防止のステッカーを貼り、街中を移動しながらの啓発活動も行った。

愛媛県

月 日	6月15日～7月16日(地域によっては7月未まで)
開催場所	四国中央市、今治市、松山市、八幡浜市、大洲市、西予市、宇和島市の計7ヶ所
活動主体	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会(愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県農業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置業協会、愛媛県ジェネリック販社協会、愛媛県登録販売者協会)
参加人員	58名(主催者側)
活動状況	今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、大人数が参加する街頭パレードは開催を見送り、商業施設で小規模な街頭キャンペーンや、関係施設において県薬物乱用防止啓発用ポスターコンクール受賞作品や啓発用パネルの展示会を実施した。街頭キャンペーンや、ポスター等の展示では、リーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く県民に呼びかけた。



愛媛県

高知県

活動主体	高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・高陵・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア（ボーイスカウト、小学生、中学生、高校生、大学生等）、民生委員、保護司、ライオンズクラブ国際協会336―A地区、関係行政機関職員
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 例年、県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、パレード等の街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の啓発資材の配布や募金活動等を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントを中止した。 ② 地域団体キャンペーン ・「ダメ。ゼッタイ。」普及運動協賛・後援団体に対しリーフレットの配布、ポスター掲示及び募金箱設置の依頼を行うなど啓発活動に努めた。 ・オーテピア高知図書館において高知県薬物乱用防止ポスター・標語コンテストの受賞作品及び、薬物乱用防止啓発パネルを展示した。また、展示と合わせて啓発資材（リーフレットやウェットティッシュ等）を設置し、配布することにより薬物乱用防止を啓発した。 展示期間…令和4年6月1日～6月30日



高知県

福岡県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	福岡県内一円
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会337―A地区、福岡県麻薬協会、(公社)福岡県医師会、(二社)福岡県歯科医師会、(公社)福岡県薬剤師会、(一社)福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、(公社)福岡県医薬品配置協会、(公社)福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、(一社)ガールスカウト福岡県連盟
参加人員	約1000名
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が必要な状況が続いていることから、街頭キャンペーンは県下1カ所のみで実施した。 実施した街頭キャンペーンでは、高校生を中心としたボランティアによる参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布、マルチビジョンによる薬物乱用防止啓発動画の放映、麻薬探知犬デモンストレーションを実施した。 また、薬物乱用防止県庁ロビー展示（パネル・ポスター）の掲示、大麻乱用防止啓発動画の放映の開催及びラジオ番組による「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の告知を行い、県民に広く周知した。 ② 地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置等の協力を依頼した。

佐賀県

月 日	7月2日
開催場所	鳥栖市
活動主体	佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署等
参加人員	4人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保健福祉事務所単位で行う街頭キャンペーンは中止した。 薬務課主催で、サッカースタジアムにおいて、リーフレット、絆創膏、標語入ポケットティッシュ一式の啓発資材、薬物乱用防止の標語を入れたトートバッグなどを配布しながら、街頭キャンペーンを実施した。 ② 地域団体キャンペーン 各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。



福岡県



佐賀県

長崎県

月 日	6月25日、26日、7月1日、3日、12日、16日、17日、20日
開催場所	長崎市、佐世保市、壱岐市、新上五島町、島原市、平戸市、時津町、五島市 合計6市2町13か所
活動主体	長崎県、長崎県薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県保護司会連合会、長崎県防犯協会連合会、ライオンズクラブ国際協会3371C地区、長崎県医薬品配置協会、長崎県PTA連合会、長崎BBS連盟、長崎税関、各市町等
参加人員	8,164名
活動状況	①6・26「ダメ。ゼッタイ。」ヤング街頭キャンペーン 県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下12か所において実施した。 人が多く集まるアーケード・大型店舗等を会場として、薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材（リーフレット・ポケットティッシュ・カットバン等）を配布するとともに国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン



長崎県

各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し募金活動に協力した。また、県庁舎に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。
その他の団体等のイベント開催に併せ、啓発資材の配布などを行った。
●青少年への啓発活動
6月3日に開催された県高校総体開会式会場において、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。
全国高校野球選手権長崎大会（甲子園予選）において、長崎市の県営ビッグスタジアム及び佐世保市総合グラウンド野球場にて「ダメ。ゼッタイ。」普及横断幕を設置し、来場者に対し啓発を行った。
また、レンタルショップ、JR駅、県内自動車学校等若者が多く集まる場所でポスターを掲示し、チラシ等の配布を行った。

熊本県

月 日	6月26日～7月18日
開催場所	県内一円
活動主体	熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会3371E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会（公社）熊本県医師会（一社）熊本県歯科医師会（公社）熊本県薬剤師会（一社）熊本県医薬品登録販売者協会（一社）熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協会の熊本県支部、阿蘇製薬（株）、KMバイオロジクス株式会社（一財）化学及血清療法研究所、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟等
参加人員	9人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の感染防止等の観点から、地域の実情に応じて中止や規模縮小を含め対応することとした上で、熊本市及び県下保健所管内で、地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、商業施設やスポーツイベント等において、啓発パンフレット、啓発資材等を配布し、協力を呼び掛けた。 また、麻薬・覚醒剤乱用防止運動期間中（10月～11月）にあわせ、住民等に対して声掛けや啓発資材の配布等を予定している。 ②地域団体等キャンペーン 県内各保健所、薬局・医薬品販売業者、病院、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。

大分県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	大分県内
活動主体	大分県、大分県警察本部及び大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
参加人員	大分県、大分県警察本部、大分市保健所、大分東明高等学校、日本ボーイスカウト大分県連盟、ガールスカウト大分県連盟、大分保護区保護司会、大分県薬剤師会、大分県医薬品登録販売者協会、大分県少年警察ボランティア協会、大分県防犯協会、大分県暴力追放運動推進センター、大分市青少年補導員連絡協議会、大分市青少年健全育成連絡協議会、大分・由布地区公民館連合会、門司税関大分税関支署、竹田ライオンズクラブ、竹田警察署、薬物乱用防止指導員計420人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

本キャンペーンは大分県が大分市内で、日本ボーイスカウト大分県連盟、ガールスカウト大分県連盟、門司税関大分税関支署等の団体の協力を得て大分県警察本部との共催で実施した。開会セレモニーでは、大分東明高等学校の生徒会長が決意表明を行い、「薬物乱用



熊本県



大分県

はダメ。ゼッタイ。」のメッセージを発信した。参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ボールペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うことで、薬物乱用防止を呼びかけた。

また豊肥地区では、豊肥保健所職員が竹田ライオンズクラブ、竹田警察署と共同で竹田総合庁舎前交差点にてドライブバーに啓発資材を配布し、薬物乱用防止を啓発した。

②地域団体キャンペーン

大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員や地域の団体、企業、店舗等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置した。また、交通量の多い大分市内2箇所、別府市内1箇所、佐伯市内1箇所の歩道橋に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

③啓発メッセージ動画の放映等について

麻薬覚せい剤乱用防止センター作成メッセージ動画を普及運動実施期間中に県庁、大分県信用組合各支店、県営ワクチンセンター内のデジタルサイネージ、大分県薬務室HPにて放映した。



大分県

宮崎県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	県内一円
活動主体	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎市、宮崎県

活動状況

- ① 6・26ヤング街頭キャンペーン
開催中止
- ② 地域団体キャンペーン
宮崎県防災庁舎にて、薬物乱用防止パネル等の掲示、啓発資料の配布を行った。
各関係機関、関係団体、市町村、大学等に対して、ポスターの掲示や国連支援募金への協力依頼を行った。



宮崎県

月 日	6月26日
開催場所	鹿児島市
活動主体	県、薬物乱用防止指導員鹿児島地区協議会
参加人員	15人

鹿児島県

活動状況

- ① 街頭キャンペーン
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年実施しているヤング街頭キャンペーンのイベント活動は中止したが、のぼり旗や啓発用パネルを設置し、「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図ることにより、薬物乱用防止の普及啓発を実施した。
- ② 地域団体キャンペーン
後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、地域で開催される各種集会・研修会等において啓発活動を展開した。



鹿児島県



沖縄県

月 日	6月25日
開催場所	那覇市
活動主体	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県薬物乱用防止協会
参加人員	34人

活動状況

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県内1ヶ所に規模を縮小し、薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資料を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施した。
- また、期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。
- ① 国連支援募金
 - ② 県の広報機関を利用した普及啓発（県広報誌への掲載）
 - ③ 市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示）
 - ④ 県内各関係機関への普及啓発依頼
 - ⑤ 県庁ロビーにおいて、パネル展示及び普及啓発資料の配布（7月11日（月）～15日（金））



沖縄県

「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要

令和4年6月28日
薬物乱用対策推進会議

[令和3年の薬物情勢]

- 薬物事犯の検挙人員は、14,408人(−159人/−1.1%)と前年より減少した。うち、覚醒剤事犯の検挙人員は、7,970人(−684人/−7.9%)と6年連続で減少し、3年連続で1万人を下回っている。一方、大麻事犯の検挙人員は、5,783人(+523人/+9.94%)と8年連続で増加し、過去最多を更新した。
- 覚醒剤の押収量は998.7kg(+174.3kg/+21.14%)、乾燥大麻の押収量は377.2kg(+78.1kg/+26.1%)と、いずれも前年より増加した。
一方、コカインの押収量は15.1kg(−806.6kg/−98.1%)、MDMA等錠剤型合成麻薬の押収量は80,623錠(−25,685錠/−24.1%)と前年より減少した。
- 薬物密輸入事犯の検挙件数は、286件(前年同値)、検挙人員は367人(+37人/+11.2%)と、前年より検挙人員が増加した。
- 30歳未満の検挙人員は、覚醒剤事犯は前年より増加し、また大麻事犯は8年連続で増加して過去最多を更新し、大麻事犯全体の検挙人員の68.0%(+1.3P)となった。
- 覚醒剤事犯の再犯者率は、66.9%(−1.6P)と15年ぶりに減少した。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は、164人(+5人/+3.1%)と前年より増加した。

目標1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

- 薬物の専門知識を有する各関係機関の職員等が連携し、学校等において薬物乱用防止教室を実施したほか、各種啓発資料の作成・配付を行った。[文科・警察・法務・財務・厚労]
- 乱用の拡大が懸念される若年層に対し、薬物乱用の危険性・有害性に関する正しい知識を普及するため、新入社員等を対象とした薬物乱用防止講習や児童・保護者等を対象とした出前講座の実施、有職・無職少年を対象とした薬物乱用防止読本の作成・配布、政府広報としてインターネット広告やラジオ番組等による情報発信等の広報啓発活動を実施した。[内閣府・警察・総務・文科・厚労]
- 各種運動、薬物乱用防止に関する講演、街頭キャンペーン等、地域住民を対象とした広報啓発活動を実施するとともに、ウェブサイトやリーフレット等の啓発資材に相談窓口を掲載し、広く周知した。[内閣府・警察・消費者・法務・財務・文科・厚労]
- 海外渡航者が安易に大麻に手を出したり、「運び屋」として利用されることのないよう、法規制や有害性を訴えるポスターの活用を図ったほか、ウェブサイトやSNS等で注意喚起を実施した。[警察・外務・財務・厚労]

目標2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

- 「依存症対策総合支援事業」の実施により、依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関の選定を推進するとともに、「依存症対策全国拠点機関設置運営事業」により医療従事者の依存症治療に対する専門的な能力の向上と地域における相談・治療等の指導者となる人材の養成を実施した。[厚労]
- 薬物事犯により検挙され、保護観察処分が付かない執行猶予判決を受けた者等、相談の機会が必要と認められる薬物乱用者に対して、再乱用防止プログラムの実施を強化するとともに、パンフレットを配布して全国の精神保健福祉センターや家族会等を紹介するなど相談窓口の周知を徹底した。[厚労・警察]
- 薬物事犯者の処遇プログラムを担当する職員への研修等の実施により、職員の専門性向上を図るとともに、関係機関と連携し、薬物処遇と効果的な社会復帰支援を切れ目なく実施した。[法務・厚労]
- 保健所、精神保健福祉センター、民間支援団体等と連携して家族会等を実施するとともに、再非行に走る可能性のある少年やその保護者に対し、積極的に指導・助言等の支援活動を行った。[法務・厚労・警察]

目標3 薬物密売組織の壊滅、末端乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止

- 通信傍受、コントロールド・デリバリー等の捜査手法の効果的な活用に努め、薬物密売組織の中核に位置する首領や幹部に焦点を当てた取締りを推進した結果、令和3年中、首領・幹部を含む暴力団構成員等3,899人を検挙した。〔警察・法務・財務・厚労・海保〕
- 令和3年中、麻薬特例法第11条等に基づく薬物犯罪収益等の没収規定を51人に、同法第13条に基づく薬物犯罪収益等の追徴規定を226人にそれぞれ適用し、没収・追徴額の合計は約8億6,482万円に上った。〔法務〕
- 迅速な鑑定体制を構築し、未規制物質や新たな形態の規制薬物の鑑定に対応するため、資機材の整備を行うとともに、薬物分析手法にかかる研究・開発を推進し、会議等を通じ関係省庁間で情報を共有した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 大麻の乱用拡大や諸外国における大麻を使用した医薬品の上市等を踏まえ、医学、薬学、法学の有識者を構成員とする「大麻等の薬物対策のあり方検討会」を開催し、今後の薬物対策のあり方などについて基本的な方向性をとりまとめた。〔厚労〕

目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止

- 関係機関間において緊密な連携を取り、捜査・調査手法を共有した結果、統一的な戦略の下に効果的、効率的な取締りが実施され、令和3年中、水際において、約1,138キログラムの不正薬物の密輸入を阻止した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 麻薬等の原料物質に係る輸出入の動向及び使用実態を把握するため、国連麻薬統制委員会（I N C B）と情報交換を行うとともに、関係機関と連携し、麻薬等の原料物質取扱業者に対し、管理及び流通状況等にかかる合同立入検査等を実施した。〔厚労・経産・海保〕
- 訪日外国人の規制薬物持ち込み防止のため、関係省庁のウェブサイト等での情報発信に加え、民間団体等に対して広報協力の働きかけを行うとともに、国際会議や在外関係機関を通じて広報・啓発を実施した。〔警察・財務・厚労・海保〕

目標5 国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止

- 国際捜査共助等を活用し、国際捜査協力を推進するとともに、国際的な共同オペレーションを進めた結果、薬物密輸入事案を摘発した。〔法務、警察、財務、厚労、海保〕
- 第64、65会期国連麻薬委員会（C N D）通常会合、アジア太平洋薬物取締機関長会議（H O N L A P）臨時会合等に参加し、参加各国における薬物取締状況や薬物の密輸入動向及び取締対策等に関する情報を入手するとともに、国際機関や諸外国関係者等と積極的な意見交換を行い、我が国の立場や取組について情報共有を図った。〔警察・外務・財務・厚労・海保〕

【当面の主な課題】

令和3年の我が国の薬物情勢は、大麻事犯の検挙人員が8年連続で増加し、5年連続で過去最多を更新するなど、大麻乱用の拡大が継続して顕著であり、「大麻乱用期」であることが確実と言える状況である。特に、30歳未満の大麻事犯は、大麻事犯全体の68%を占めており、若年層における乱用が拡大している。一方で、諸外国において大麻に由来する医薬品が上市され、国際会議等においても大麻の医療用途等への活用が議論されている。こうしたことから、取締りのより一層の強化や若年層に焦点を当てた効果的な広報・啓発活動を推進するとともに、「大麻等の薬物対策のあり方検討会」において示された基本的な方向性を踏まえ、関連法令の制度改正に向けた議論を行っている。

また、我が国で押収される違法薬物の大半は水際で押収されており、今後も貨物等に隠匿して密輸入する事犯等の増加が懸念されることから、国内外の関係機関が連携を強化し、コントロールド・デリバリー捜査を積極的に活用するなど、徹底した水際対策を実施する必要がある。

覚醒剤事犯の再犯者率は15年ぶりに減少したものの、依然として高い水準にあることから、関係省庁との連携を強化し、薬物乱用者に対する適切な治療・処遇と効果的な社会復帰支援をこれまで以上に推進する必要がある。

[参考データ]
(人)

●全薬物事犯検挙人員

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
検挙人員	13,881	13,292	13,437	13,887	13,841	14,019	14,322	13,860	14,567	14,408

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ
（注）覚醒剤、大麻、麻薬・向精神薬、あへん事犯の検挙人員の合計。

●覚醒剤事犯検挙件数、検挙人員

(件、人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
検挙件数	16,689	15,472	15,571	16,168	15,374	14,496	14,289	12,155	12,292	11,809
検挙人員	11,842	11,127	11,148	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●覚醒剤以外の薬物事犯検挙人員

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
大麻	1,692	1,616	1,813	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570	5,260	5,783
麻薬・向精神薬	341	540	452	516	505	505	528	558	638	639
コカイン	66	48	66	103	153	185	217	213	204	169
ヘロイン	30	20	7	3	0	9	10	7	7	0
MDMA 等錠剤型合成麻薬	40	22	35	29	37	41	57	90	219	247
あへん	6	9	24	4	7	12	2	2	15	16

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●薬物押収量

(kg、MDMA等錠剤型合成麻薬は錠)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
覚醒剤	466.6	846.5	570.2	431.8	1,521.4	1,136.6	1,206.7	2,649.7	824.4	998.7
乾燥大麻	332.8	198.0	166.6	104.6	159.7	270.5	337.3	430.1	299.1	377.2
大麻樹脂	42.5	1.2	36.7	3.9	1.0	21.9	3.1	14.8	3.6	2.9
コカイン	6.9	124.1	2.3	18.6	113.3	11.6	157.4	639.9	821.7	15.1
ヘロイン	0.1	3.8	0.0	2.0	0.0	70.3	0.0	16.7	14.8	0
あへん	0.2	0.2	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8
MDMA 等錠剤型合成麻薬	3,708	2,147	608	1,074	5,122	3,244	12,307	73,915	106,308	80,623

出典：警察庁、財務省、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
総数	148	125	94	119	136	93	98	97	99	115
うち中学生	3	1	2	1	7	0	3	3	0	1
うち高校生	22	15	12	14	18	8	13	10	11	13

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年及び20歳代の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
総数	2,131	1,682	1,489	1,556	1,437	1,334	1,285	1,151	1,114	1,156
うち少年	148	125	94	119	136	93	98	97	99	115
うち20歳代	1,983	1,557	1,395	1,437	1,301	1,241	1,187	1,054	1,015	1,041

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
総数	67	61	80	144	211	301	434	615	899	1,000
うち中学生	0	0	3	3	2	2	7	6	8	8
うち高校生	18	10	18	24	32	53	74	110	159	189

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

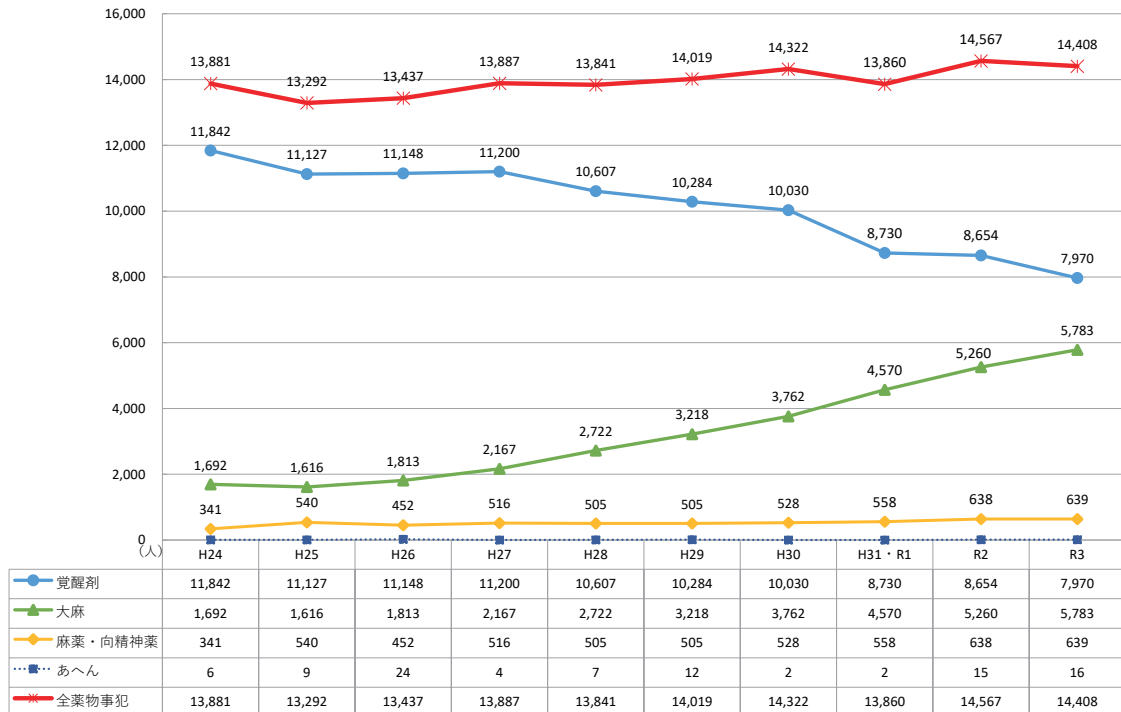
●少年及び20歳代の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3
総数	809	712	745	1,049	1,237	1,519	2,007	2,622	3,511	3,934
うち少年	67	61	80	144	211	301	434	615	899	1,000
うち20歳代	742	651	665	905	1,026	1,218	1,573	2,007	2,612	2,934

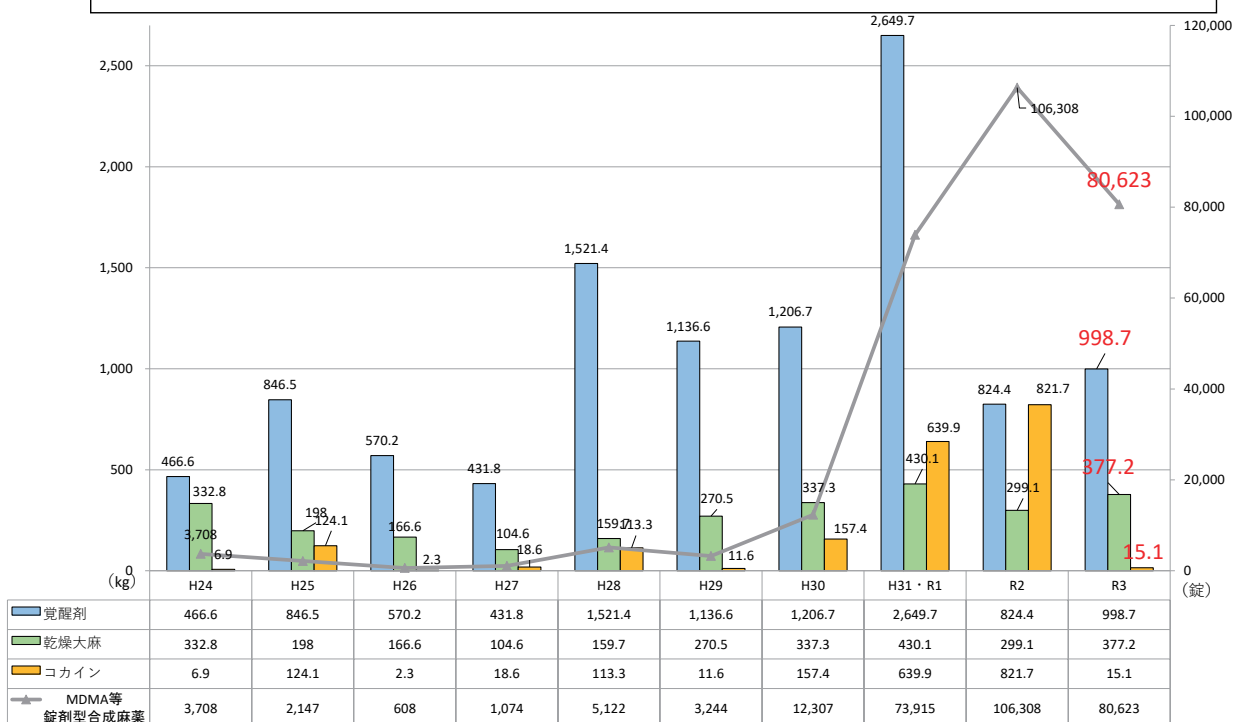
薬物事犯検挙人員の推移

- 薬物事犯全体の検挙人員は、昨年より減少したが、**近年横ばいで推移**
- 大麻事犯の検挙人員は、**8年連続で増加し、過去最多を更新**
- 麻薬事犯の検挙人員は、**過去10年で最多**



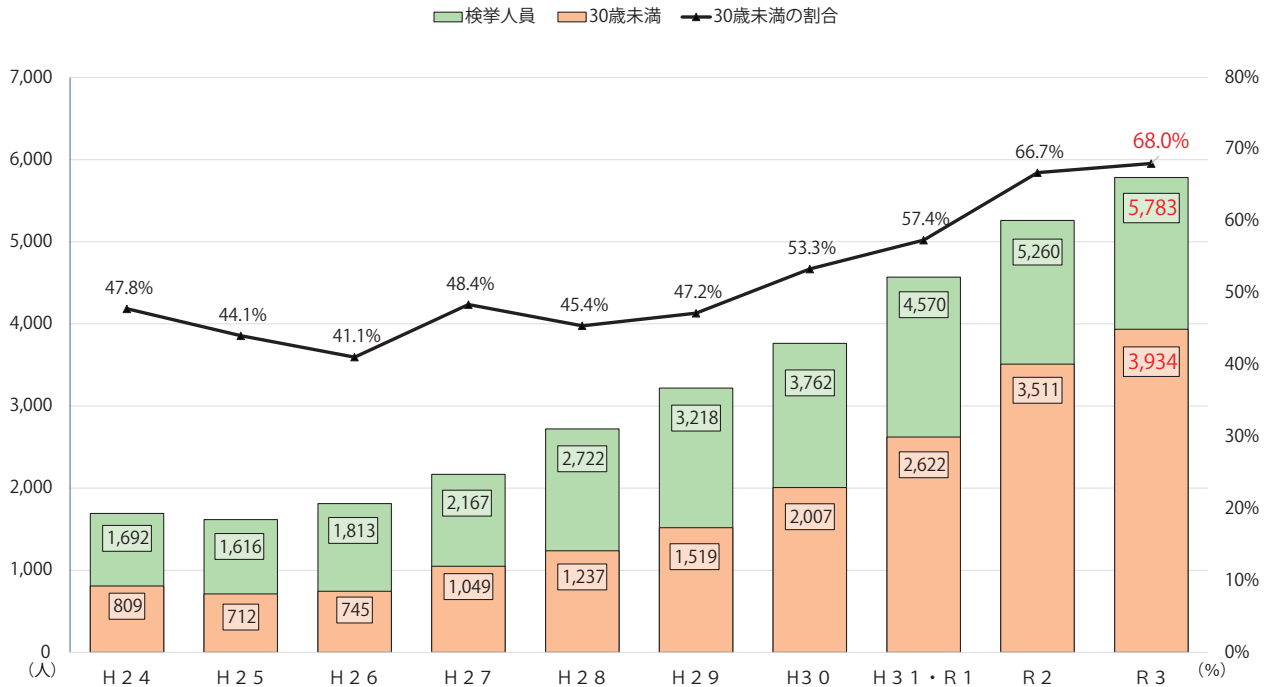
薬物押収量の推移

- 覚醒剤押収量は、前年より増加して、**約1トン**を押収
- 乾燥大麻押収量は**前年より増加し、300キロ超**を押収
- コカイン押収量は**前年より大幅に減少**



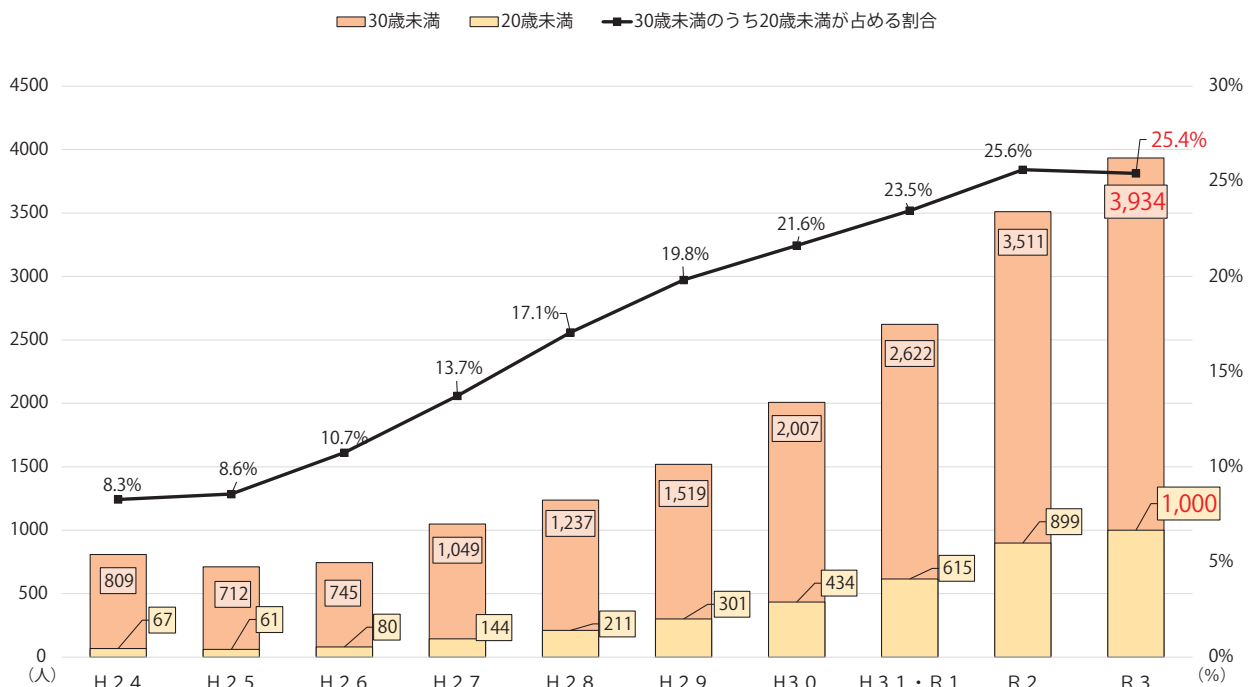
大麻事犯における検挙人員及び30歳未満の割合

- 大麻事犯における30歳未満の検挙人員は、**8年連続で増加**
- 大麻事犯の検挙人員のうち、**30歳未満**が占める割合は**68.0%**

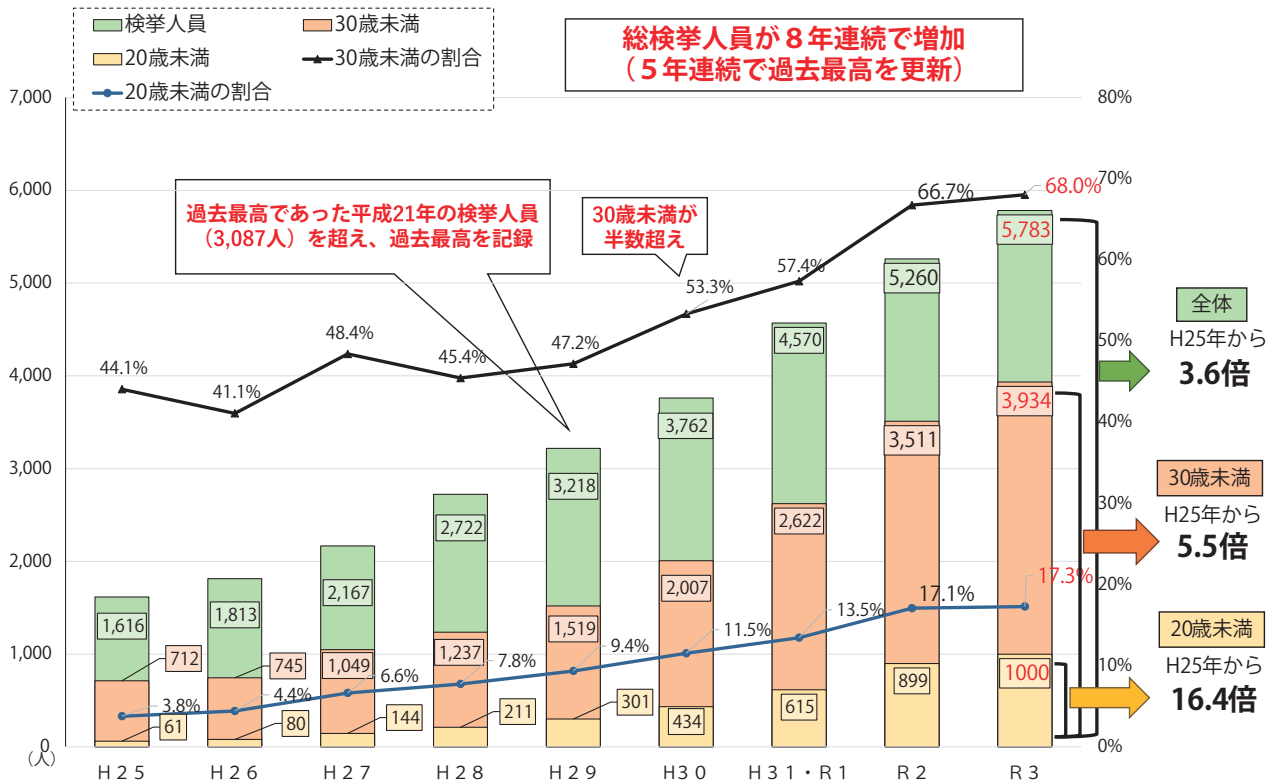


大麻事犯における20歳未満の検挙人員

- 大麻事犯における20歳未満の検挙人員は、**8年連続で増加し、初めて1,000人を記録**
- 30歳未満の検挙人員のうち**20歳未満**が占める割合は**25.4%**

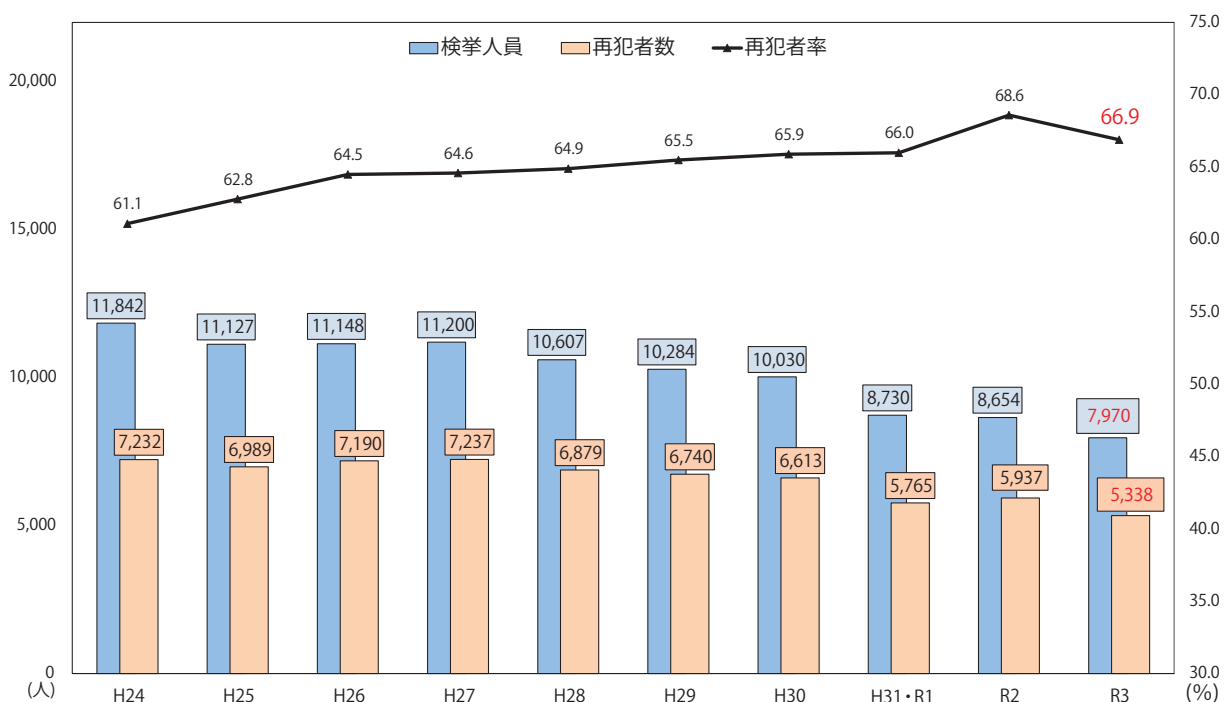


大麻事犯における検挙人員の推移（年齢別）



覚醒剤事犯における再犯者率の推移

○覚醒剤事犯の再犯者率は、15年ぶりに減少して66.9%



国連薬物・犯罪事務所（UNODC）ワーリー事務局長来日

（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターと意見交換会を実施



2022年7月27日、外務省内国際会議室において国連薬物・犯罪事務所（UNODC）ワーリー事務局長と（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター（DAPC）藤野理事長及び在ウィーン国際機関日本政府代表部 引原特命全権大使、並びにそれぞれの担当メンバーが加わり、意見交換会が行われました。

代表者からの挨拶とメンバー紹介の後、DAPCから「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を始めとする国内における薬物乱用防止活動について、合わせてUNODCに対して長年継続してきた「国連支援募金」の活動と現状についてプレゼンテーションを行いました。

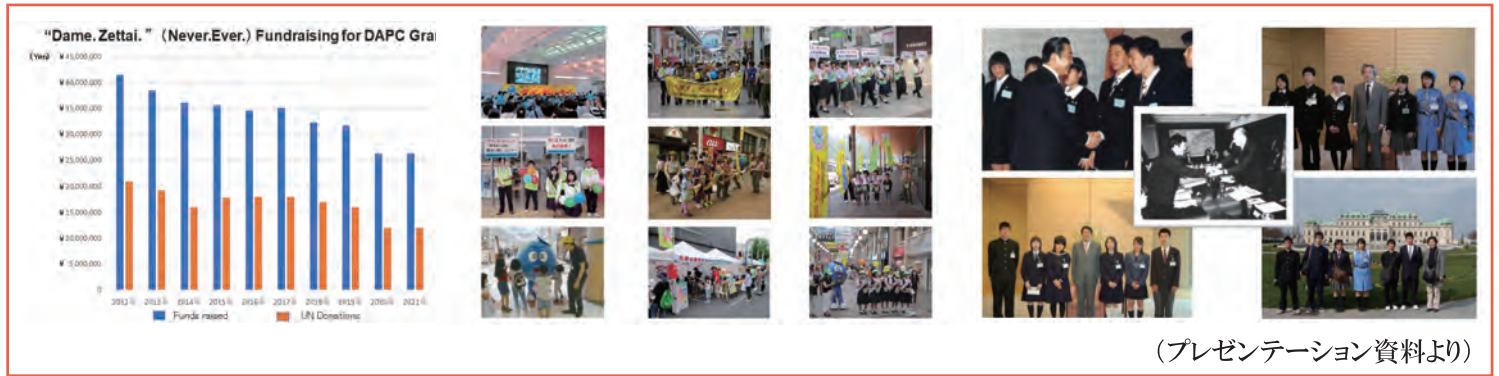


また、それらを民間レベルで大きく支えているライオンズクラブの活動についても報告され、いくつかの具体的な質疑応答が続きました。

それを基に藤野理事長より以下の提案がなされました。

第一に、「国連支援募金」を受領した各国の団体が直面する状況と活動につき、さらにより一層詳しい情報を収集していただけると将来のために有用であること、また第二に、「国連支援募金」が来年30周年を迎える節目の機会を捉え、2023年3月開催予定の国連麻薬委員会（CND）第66会期において、ハイレベルでの可能性を含めた、記念サイド・イベント開催を検討すること。

●センターだより●



続いてワーリー事務局長からは、「国連支援募金」の長きにわたるDAPCの貢献に謝意が述べられ、金額もさることながら、日本の方々の薬物問題への関心の高さとこの問題に対する強い気持ちを、メッセージとしてしっかり受け止めているとの言葉が添えられました。



さらに今後に向けてUNODCサイドからも、この支援募金が世界の地域でどのように有効に使われているかの詳細な実態報告と、その結果がどのような成果に結びついたのか、についてNGOから報告を上げ、それをまとめて、日本の皆様にお伝えできるよう早速担当部署に指示すると約束されました。

最後に、来年初頭の麻薬委員会(CND)において、日本政府とDAPCとの協力により、世界各国、地域、NGOでの活動実績の紹介や、受領国や日本からの特に若い世代の参加の可能性なども含め、サイド・イベントの実施の可能性を、今後双方の関係者で検討していくことで合意し、ミーティングを終了しました。

【出席者】

- 国連薬物・犯罪事務所(UNODC)
ガーダ・ファトヒー・ワーリー 事務局長
加藤美和 事業部長
イゴール・コンドラチェフ 政策分析局資金調達課対外関係専門官
ブリギッテ・ストローブル＝ショウ 条約局腐敗及び経済犯罪部長
- 外務省
引原毅 在ウィーン国際機関日本政府代表部 特命全権大使
山田哲也 総合外交政策局 国際安全・治安対策協力室室長
中島新 総合外交政策局 国際安全・治安対策協力室課長補佐
前平由紀 総合外交政策局 国際安全・治安対策協力室課長補佐

- 一般社団法人日本ライオンズ
村木秀之 理事長
- (公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
藤野彰 理事長
原田進 専務理事
加藤康樹 企画部長
倉田麻里 企画部

●センターだより●

【啓発資材一覧】

薬物乱用防止教室や講習会、イベント等での啓発活動に御利用ください。

あなたに知ってもらいたい 薬物のなはし  「大麻等の薬物対策のあり方検討会」とりまとめにも触れた、今一番新鮮な薬物乱用防止のためのテキストです。指導者をはじめ、特に10～20代の若い人達に伝えたい内容です。 ￥600	薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」 健康に生きよう  主に小・中学生を対象にした薬物乱用防止教育の全28ページからなる冊子です。 ￥126	薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」 愛する自分を大切に  主に小学生を対象にした薬物乱用防止教育の全20ページからなる冊子です。 ￥126
機能と役割  薬物乱用問題の現状と啓発活動の歩み、国際的な対策などを収録。広く薬物問題を解説した資料集です。(2017年版) ￥525	「ダメ。ゼッタイ。」下敷き  乱用される危険のある薬物の写真、人体への影響をイラストで具体的に説明しています。 名入れ対応が可能となっております。 ￥70	薬物乱用防止マニュアルQ&A 「ダメ。ゼッタイ。」  主に中学生以上を対象にした全33ページからなるB5版変型サイズの薬物乱用防止教育Q&A集です。 ￥190
薬物乱用防止教室推進の手引き  薬物乱用防止教室の実践のためのハンドブックです。実施に向けて必要となる事前準備から当日までの留意点やポイントなどをコンパクトにまとめました。全119ページ。 ￥220	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 ポスター(2022年版)  6.26国際麻薬乱用撲滅デーに合わせて毎年春に制作される啓発ポスターです。 ￥126 (B2) ￥105 (B3)	啓発用リーフレット  薬物別の特徴や薬物依存について、身体への影響などを図や写真を使って簡潔に解説したリーフレットです。 名入れ対応が可能となっております。 ￥16
薬物標本  乱用薬物の模造品とその原料となる植物見本を合わせて配列。イベントや展示会に適した標本です。 ￥63,000	新薬物標本  乱用薬物の模造品とその原料となる植物見本12種類を配列した標本です。 ￥30,000	コンパクト薬物標本  軽量でコンパクト、耐久性に優れ、持ち運びにも便利な乱用薬物標本です。 ￥21,000

予告 最新啓発動画を鋭意制作中！（9月初旬からご案内の予定）

2022-2023 年度薬物乱用防止啓発動画（DVD）

No.55「薬物のはなし～どうして学ばなきゃいけないの？～」



自分自身にとって身近なことだと想像しにくい「薬物の問題」について学ぶ意味を、ダメ。クマ君と一緒に博士に聞いてみよう！

「薬物乱用」という行為が自分の心とからだにどれだけ危険なことなのか、またその行為は自分の周りにどんな影響を及ぼすのか、更にもしも薬物乱用が広がってしまったら私たちの社会はどうなってしまうのか・・・。

動画視聴後「薬物乱用防止教室」の中で講師を交えて、子どもたち同士の活発なディスカッションを期待しています。

薬物乱用防止 レクチャーパネルセット	啓発活動用パネル10枚組	啓発活動用パネル5枚組
 予防啓発のためのインパクトのあるツールとして、薬物乱用防止のための基礎知識を8枚のパネルにまとめました。 ¥ 180,000 (B2)	 10枚をセットにしたパネルです。授業の教材として、またイベントや展示会でご利用頂けます。 ¥ 190,000 (B1) ¥ 165,000 (B2)	 5枚をセットにしたパネルです。授業の教材として、またイベントや展示会でご利用頂けます。 ¥ 97,000 (B1) ¥ 82,500 (B2)
No.54: それってホント？ 事例でみる薬物乱用	No.53: 今、薬物問題を考えよう！ ～私たちの未来のために～	No.52: 大麻警報発令中！ ～アイメッセージで断ろう～
 薬物乱用について語られる4つの事例を取り上げ、子供たちが自身が検証する題材となっています。また、ネットに溢れている情報を正しく見極めるヒントにも触れています。 ¥ 2,300	 薬物問題のリアルな実態を元麻薬取締官から伺い、改めて自分や家族や社会にとって何が大切なことを考えてみるきっかけを提示しています。 ¥ 2,300	 乱用が拡大している大麻についてその危険性・有害性、なぜ使用してしまうのか、どう断ればいいのか、その対応と対策について具体的に提示します。 ¥ 2,300
No.51: 薬物乱用から自分を守る	No.50: 身近にひそむ薬物乱用	No.49: 薬物乱用はダメ。ゼッタイ。 ～やさしい解説！～
 大切な脳を破壊する構造についてなどに加え、最新調査による大麻拡大の実態を通じて「薬物乱用から自分を守る」を学ぶ。協力 国立精神・神経医療研究センター ¥ 2,300	 身近にひそむ薬物乱用の危険を現役の小学校養護教諭がやさしく子供たちに伝えています。（手話による通訳つき）伊丹信子（手話通訳士） ¥ 2,300	 埼玉県立精神医療センター協力のもと、薬物乱用がいかに危険かを医師の話を交え、身体に及ぼす影響や薬物依存について分かり易く解説しています。 ¥ 2,300

ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

2022年2月10日から2022年8月1日までに、当センターにご寄付
いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。
ご協力ありがとうございました。

【ご寄付団体・個人】

ツカモト ミチコ 様 吉川 研司 様
東京八王子いちょうライオンズクラブ 様 東京八王子陵東ライオンズクラブ 様
(一財)東京都警察懇話会 様 (一社)北海道医薬品配置協会 様
東京江戸川東ライオンズクラブ 様

【法人賛助会員】

株式会社豊島印刷 様 医療法人社団進正会服部病院 様
UUUM 株式会社 様 株式会社エスエス製薬 様
丸石製薬株式会社 様

【個人賛助会員】

千葉 信雄 様(継続)	山地 義夫 様(継続)	池田 冬美 様(継続)	神澤 正三 様(継続)
小池 和子 様(継続)	小山 功男 様(継続)	児玉 金之助様(継続)	根津 万寿夫様(継続)
原 恒道 様(継続)	星野 新一 様(継続)	村島 吉豊 様(継続)	古瀬 智之 様(継続)
稲荷 恭三 様(継続)	石井 征二 様(継続)	今井 啓祐 様(継続)	神垣 鎮 様(継続)
小清水 征次様(継続)	舘 親光 様(継続)	中嶋 敏次 様(継続)	永谷 健司 様(継続)
福田 将己 様(継続)	山本 章 様(継続)	吉川 研司 様(継続)	田口 守 様(継続)
村松 滝夫 様(継続)	大澤 誠司 様(継続)	星 和夫 様(継続)	中村 楯夫 様(継続)
丸井 一弘 様(継続)	森 和弘 様(継続)	松石 高之 様(継続)	古木 光義 様(継続)
野々 晴久 様(継続)	永浜 静江 様(継続)	宮脇 節 様(継続)	和田 義広 様(継続)
石井 明 様(継続)	山崎 功 様(継続)	矢口 博行 様(継続)	津村 信彦 様(継続)
寺田 義和 様(継続)	篠 順三 様(継続)	大屋 博 様(継続)	岡田 譲治 様(継続)
村田 昭夫 様(継続)	山田 順子 様(継続)	徳山 尚吾 様(継続)	関口 正雄 様(継続)
杉原 省吾 様(継続)	齊藤 勲 様(継続)	仲 真美子 様(継続)	佐藤 精一郎様(継続)
山田 松三郎様(継続)	碓野 孝之 様(継続)		



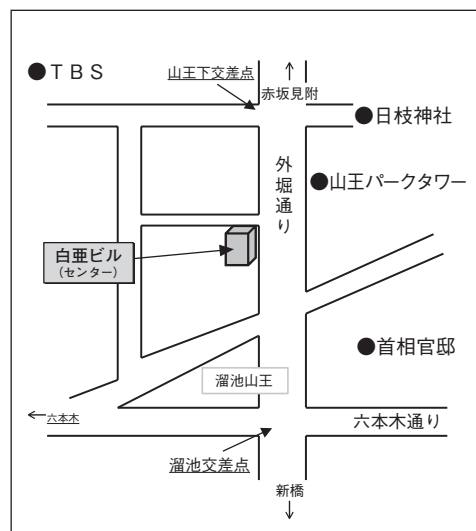
公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-4-1 (白亜ビル9F)

TEL.03 (5544) 8436 ~ 7 FAX.03 (5544) 8473

ホームページアドレス <https://www.dapc.or.jp>



「うちの子は大丈夫」は、通用しない。

スマホで薬物を 買う子どもたち

はる うみ

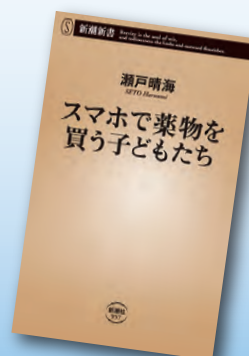
瀬戸晴海

元・関東信越厚生局
麻薬取締部部長

絵文字に隠語、秘匿アプリ……SNSとスマホを介した「密売革命」で、若者たちの薬物汚染が急速に蔓延している。ひと昔前とは様変わりした最新ドラッグ事情から、安易な誤解で広がる大麻の脅威まで、

元「マトリ」トップが実例とともに徹底解説。

●定価924円(税込)



新潮新書

新潮社 <https://www.shinchosha.co.jp>

介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

八王子市暁町



●シルバービレッジ八王子

直下型地震にも対応
安心の免震構造

●シルバービレッジ日野東館



多摩モノレール
甲州街道駅徒歩1分!!

●シルバービレッジ日野



八王子市宮下町

●シルバービレッジ八王子西



八王子に隣接
救急指定右田病院



日野・日野東館に隣接
康明会
ホームケアクリニック

在宅福祉部

- 居宅介護支援事業所
シルバービレッジいちょうの里
- 訪問介護事業所
シルバービレッジいちょうの杜
- セカンドライフ応援倶楽部
シルバービレッジいちょうの実



「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。

シルバービレッジ

パンフレットのご請求は

0120-19-0432

ホームページ **シルバービレッジ** 検索

株式会社シルバービレッジ 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

財団広報誌「NEWS LETTER」2022.9 第107号をご覧ください、ありがとうございました。

財団では、薬物問題に取り組むすべての方々のお役にたてるよう本広報誌を始め、ホームページでも日々最新の情報発信に努めております。

予防啓発のための各種教材のご提供や関連書籍の紹介、オリジナル企画や特集、専門機関からのデータや統計資料、行政からのお知らせ、海外情勢などを網羅し、整理・分類の上ご紹介しています。

この機会にぜひご覧ください、ご意見等お寄せください。

ダメ。ゼッタイ。

検索 

<https://dapc.or.jp>

